



サイトの構築方法

サイトの構築方法

ここでは、Comunica Templatesのテンプレートを活用してできるサイトの作り方について簡単にご説明します。Comunica Templatesのテンプレートは、Movable Type用テンプレートです。ブログ操作における詳細は、Movable Typeのドキュメントをご参照ください。

(<http://www.movabletype.jp/documentation/>)

目次

- (0) [サイトの構成要素](#)
- (1) [ウェブページの作成](#)
 - (1-1) [ウェブサイトでウェブページを作成](#)
 - (1-1-1) [サービスの内容ページを作成](#)
 - (1-1-2) [お問い合わせページを作成](#)
 - (1-1-3) [サイドナビにお問い合わせ先を作成](#)
 - (1-1-4) [トップページにトピック記事を作成](#)
 - (1-2) [ブログでウェブページを作成](#)
 - (1-3) [ウェブサイトとブログ：サイドナビのフリーエリアを利用](#)
- (2) [カテゴリメニューの作成](#)
 - [MT5.0 系用テーマ・テンプレートをMT5.1 系、MT5.2 系に適用する場合](#)
 - [カテゴリの作成](#)
 - [モジュール「説明x \(xは数字\)」について](#)
 - [サイドナビのカテゴリ名表示とフォルダ名の変更](#)
- (3) [ブログ記事の作成](#)
 - [メインのブログに記事を作成](#)
 - [ニュースのブログに記事を作成](#)
 - [概要について](#)
 - [タグ付け](#)
 - [アイテムについて](#)
- (4) [コメントとトラックバック](#)
- (5) [SEO対策 \(titleとmetaタグにおけるdescription とkeywords\)](#)
- (6) [ウィジェットについて](#)
- (7) [ロゴの入れ替え](#)
- (8) [トップイメージの入れ替え](#)
- (9) [文字サイズの変更](#)
- (10) [用意されているHTMLタグ用のクラス](#)
- (11) [用意されているCSSスタイル済みのHTMLタグ](#)

(0) サイトの構成要素

以下の図は、Comunica Templates のテンプレートで作成されるサイトのトップページで、主な構成要素について記載したものです。これからご説明する各セクションの名称のご参考にしてください。(テキストなどは、ズームで拡大してご確認ください。)



(1) ウェブページの作成

ウェブページは、ウェブサイトとブログにて作成することができます。

■ ウェブサイトでのウェブページ

Comunica Templates のウェブサイト用テーマでは、作成したウェブページのリンクは、ヘッダーメニューに 5 件（ヘッダーメニューの場合、表示の関係もあり、メニュータイトルの長さによって 5 件全て表示できない場合があります）、フッターメニューに 5 件表示できるようにしています。ウェブページをヘッダーメニューに表示するか、フッターメニューに表示するかは、各ページにおいて、タグを指定することで管理することができ、順序も指定できます。

■ ブログでのウェブページ

Comunica Templates のブログ用テーマでは、作成したウェブページのリンクは、それぞれのブログのサイドナビに表示されるようにしています。「メインのブログ」のウェブページにおいては、ウェブサイトのサイドナビにも表示されるようにしています。「ニュースのブログ」のウェブページは、「ニュースのブログ」のサイドナビでのみ表示されるようにしています。

(1-1) ウェブサイトでウェブページを作成

まずは、ウェブサイトにて、ウェブページを作成していきます。

「テーマの設置方法 (01_HowtoInstall.pdf)」にて作成した「First Website」を使用して解説していきます。

■ 1-1-1： サービスの内容ページを作成

Movable Type にログインし、ダッシュボードを表示します。「First Website」をクリックします。



左のナビゲーションより、「ウェブページ」の右側にある矢印をクリックします。



「ウェブページ」以下のサブメニューが表示されますので、この中から「新規」をクリックします。



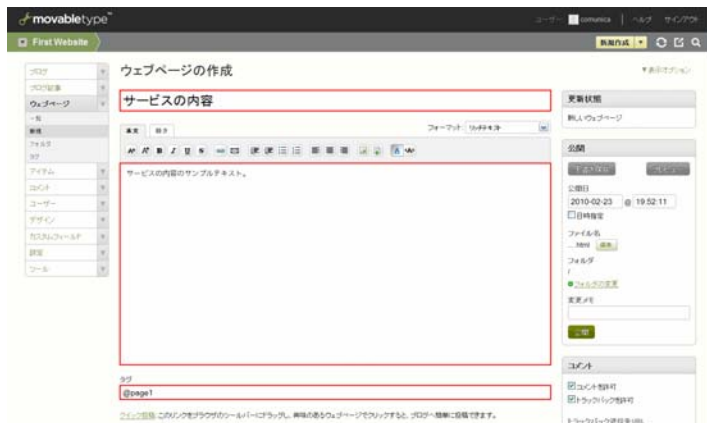
「ウェブページの作成」というタイトルのページに移りますので、タイトルと本文の箇所にテキストを入力します。ここでは、タイトルとして「サービスの内容」、本文に「サービスの内容のサンプルテキスト。」と入力します。ここでは、「HTML モード」にて、<p></p>タグで文章を囲んでいます。(例：<p>サービスの内容のサンプルテキスト。</p>)

※正しい HTML 記述をするには、「HTML モード」ボタンをクリックし、HTML モードでタグ付けを行うか、「フォーマット」を「なし」にして HTML のタグ付けをします。これには基本的な HTML の知識が必要ですが、SEO を高める為、重要です。

ヘッダーメニューにリンクを表示するため、タグの箇所に「@page1」と入力します。ヘッダーメニューに表示するために使用できるタグは、「@page1」、「@page2」、「@page3」、「@page4」、「@page5」です。このうち、「@page1」、「@page2」、「@page3」はグローバルメニューにおいて、「ホーム」の右側から「メインのブログ」の左側までに表示されるよ

うになっており、また、「@page4」、「@page5」は、「ニュースのブログ」の右側に表示されるようにしています。コンテンツの内容により、ナビの並び順を工夫したい時に便利です。フッターメニューにリンクを表示させたい場合のタグは、「@page6」、「@page7」、「@page8」、「@page9」、「@page10」となります。リンクの並び順は、タグの数字が小さいほど左に、大きいほど右になります。

(注意：タグ付けを行わない場合、ヘッダーメニュー、フッターメニューには、リンクは表示されません。)

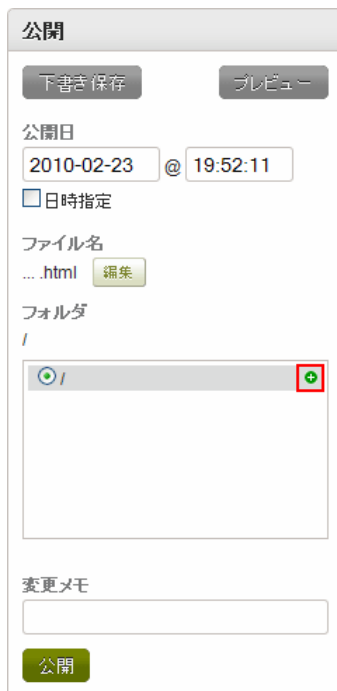


右側「公開」メニューの中に「フォルダ」の欄がありますので、フォルダ管理をしたい場合は、「フォルダの変更」をクリックし、このページが属するフォルダを作成します。ただし、ウェブサイトで作成するウェブページは、「ヘッダーメニュー」、「フッターメニュー」にタグ管理で表示されるようにしているので、フォルダの中にファイルを作成しても、しなくても、メニューの表示に変化（階層など）が生じることはありません。ここでは、「services」というフォルダを作成し、ファイルを作成することにします。この際、ファイル名は「index.html」とします。

「フォルダ」の作成方法ですが、右側の「公開」メニューにあります「フォルダの変更」をクリックします。



「フォルダ」の下に、丸いボタンが表示されますので、それにマウスオーバーすると右側に、緑色プラスマークのボタンが表示されますので、これをクリックします。



公開

下書き保存 プレビュー

公開日
2010-02-23 @ 19:52:11
☐ 日時指定

ファイル名
... .html 編集

フォルダ
/
/ 

変更メモ

公開

テキストボックスが表示されますので、そこに、ここでは「services」と入力し、緑色のプラス（+）マークをクリックします。



公開

下書き保存 プレビュー

公開日
2010-02-23 @ 19:52:11
☐ 日時指定

ファイル名
... .html 編集

フォルダ
/
/ 

変更メモ

公開

「フォルダ」の箇所に「services」が設定されたのがわかります。
次に、ファイル名を編集します。「ファイル名」のところの「編集」ボタンをクリックします。



公開

下書き保存 プレビュー

公開日
2010-02-23 @ 19:52:11

☐ 日時指定

ファイル名
... .html **編集**

フォルダ
/services/
[+ フォルダの変更](#)

変更メモ

公開

テキストボックスが表示されますので、ここに「index」と入力し（「ファイル名」は、その「フォルダ」における初期値としてのページの場合、「index」と設定します。初期値で無い場合は、任意の名前を付けます。また、「ファイル名」に何も入力しない場合は、Movable Typeが自動で名前を設定します。）、「公開」ボタンをクリックします。



公開

下書き保存 プレビュー

公開日
2010-02-23 @ 19:52:11

☐ 日時指定

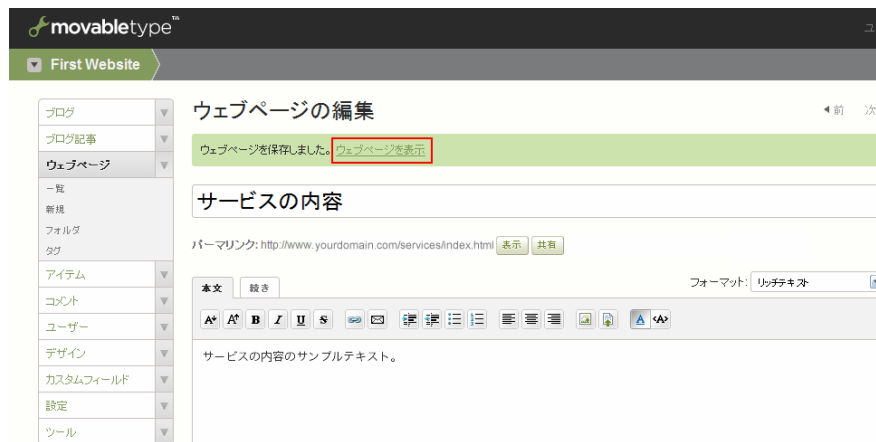
ファイル名
index .html

フォルダ
/services/
[+ フォルダの変更](#)

変更メモ

公開

「ウェブページを保存しました。ウェブページを表示」というメッセージが表示されますので、「ウェブページを表示」をクリックします。



「サービスの内容」というタイトルのウェブページが表示されます。



※「サービスの内容」のウェブページが作成できたら、サイト全体に「サービスの内容」ページへのリンクを反映させるために、「First Website」、「メインのブログ」、「ニュースのブログ」において「サイトを再構築」します。(再構築ボタンをクリックします。)

■ フォルダの管理

ウェブサイトで作成したウェブページ用のフォルダは、ヘッダーメニュー、フッターメニュー上に表示されることはありませんが、サイトマップ上で表示されます。

今「サービスの内容」というタイトルのウェブページにいますので、そこから「サイトマップ」をクリックします。



「サイトマップ」のページが表示されます。「First Website」以下にある「services」が先ほど作成したフォルダで、ここにはフォルダ名がそのまま表示されていますが、これを「サービス」などに変更したい場合は、Movable Type の管理画面で変更することが出来ます。



先ほどウェブページを作成した Movable Type の管理画面に戻ります。左のナビゲーションの「ウェブページ」以下にあるサブメニューより「フォルダ」をクリックします。



「フォルダの管理」というページに移りますので、この中の「services」をクリックします。



「フォルダの編集」というページが表示されます。ここの「説明」の箇所に「サービス」と入力し、「変更を保存」ボタンをクリックします。



「フォルダを編集しました。 設定を有効にするために再構築してください。」というメッセージが表示されますので、「再構築」のリンクをクリックします。



「First Website の再構築」というポップアップウィンドウが表示されますので、「すべてのファイル」を選択し、「再構築」ボタンをクリックします。



「First Website を再構築しました。」とメッセージがでますので、「閉じる」ボタンをクリックし、ウィンドウを閉じます。



先ほどの「First Website」の「サイトマップ」の画面に戻り、画面をリフレッシュします。「services」となっていた箇所が、「サービス」と変更されているのがわかります。



このようにして、ウェブサイトのウェブページを利用し、「会社概要」、「Q&A」、「プライバシーポリシー」、「利用規約」などのページを、タグを使い分け、ヘッダーメニューやフッターメニューにリンクを作成していくことができます。

■ 1-1-2： お問い合わせページを作成

ウェブサイトのウェブページを利用して、「お問い合わせ」ページを作成します。

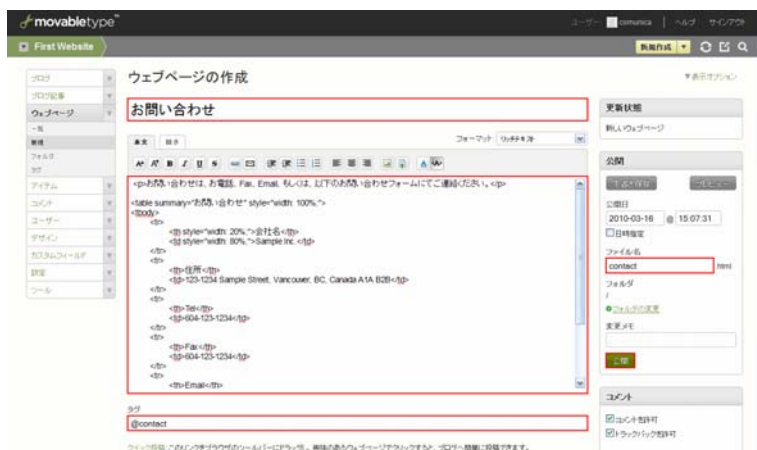
先ほどの Movable Type 管理画面より、「ウェブページ」以下にあるサブメニューより「新規」をクリックします。



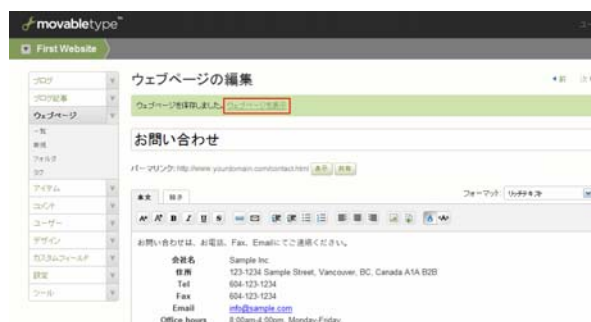
「ウェブページの作成」というタイトルのページに移りますので、タイトルに「お問い合わせ」、本文にお問い合わせの内容となるような連絡先（住所、電話番号、Fax 番号、Email アドレスなど）を記述します。（ここでは、「HTML モード」でテーブル<table>を組んで情報を羅列しています。基本的な HTML タグを習得しておくとう便利です。）

そして、「タグ」の箇所に入力し、半角英数文字で「@contact」と入力し、ファイル名のところの「編集」ボタンをクリックし、ファイル名として「contact」と入力（必須です）、そして「公開」ボタンをクリックします。

※「お問い合わせ」ページを作成するポイントは、「タグ」の箇所に「@contact」と入力することと、「お問い合わせ」ページ用に「フォルダ」を用意しない点（つまり root 直下にファイルを置きます）、そして、ファイル名を「contact」にすることです。



「ウェブページを保存しました。 ウェブページを表示」とメッセージが出ますので、「ウェブページを表示」をクリックします。



「お問い合わせ」ページが表示され、本文に入力したコンテンツが表示されているのがわかります。



■ 1-1-3： サイドナビにお問い合わせ先を作成

次に、ウェブサイトのウェブページを利用して、サイドナビに「お問い合わせ先」を作成します。先ほどの Movable Type 管理画面より、「ウェブページ」以下にあるサブメニューより「新規」をクリックします。



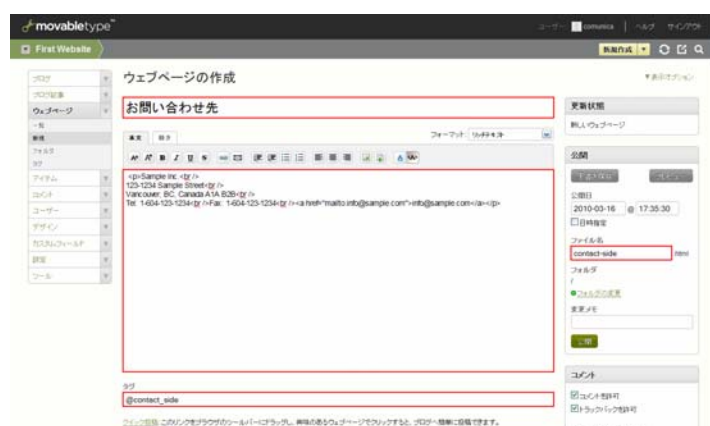
「ウェブページの作成」というタイトルのページに移りますので、タイトルとして「お問い合わせ先」、「本文」にお問い合わせ先としてお知らせしたい情報（住所、電話番号、Fax 番号、Email アドレスなど）を<p></p>タグで囲み、改行は
にて、入力します。ここでは、「HTML モード」で情報を入力しています。

（例えば、<p>住所：〇〇〇
電話番号：〇〇〇
Fax：〇〇〇</p>）

（タイトルに入力したテキストは、サイドナビに「お問い合わせ先」セクションのタイトルとして表示されます。）

そして、「タグ」の箇所に半角英数文字で「@contact_side」と入力し、ファイル名のところの「編集」ボタンをクリックして「contact-side」と入力、そして「公開」ボタンをクリックします。（ファイル名は特に「contact-side」である必要はありません。ご自分でわかりやすい名前であれば OK です。）

※「お問い合わせ先」セクションをサイドナビに作成する上でポイントなのは、「タグ」の箇所に「@contact_side」と記述することと、「お問い合わせ先」セクションのページ用に「フォルダ」を用意しない点です。（つまり root 直下にファイルを置きます。）



「ウェブページを保存しました。ウェブページを表示」というメッセージが表示されますが、ここでは、「ウェブページを表示」の箇所のリンクはクリックせず、「サイトの表示」アイコンをクリックします。



サイトが表示され、サイドナビに「お問い合わせ先」セクションができたことがわかります。



※サイドナビに表示される「お問い合わせ先」をサイト全体に反映する為に、「First Website」、「メインのブログ」、「ニュースのブログ」を再構築します。

■ 1-1-4： トップページにトピック記事を作成

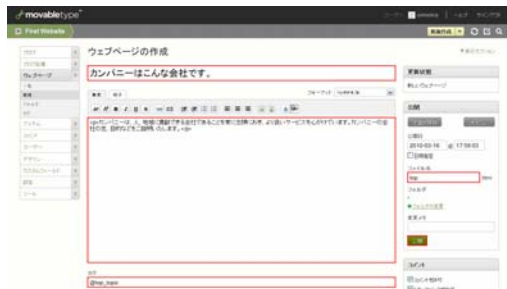
次は、ウェブサイトのウェブページを利用して、トップページに「トピック記事」を作成します。先ほどの Movable Type 管理画面より、「ウェブページ」以下にあるサブメニューより「新規」をクリックします。



「ウェブページの作成」というタイトルのページに移りますので、ウェブページのタイトルと「本文」にそれぞれテキストを入力します。（※画像などもご自由にお入れください。また、<h3>タグ、<h4>タグなどご利用いただけます。HTML の基本的な知識は必要ですが、難しくありませんので、是非習得されてください。）ここでは、本文は「HTML モード」で文章を<p></p>タグで囲んでいます。（例えば、このように→ <p>本文の内容です。</p>）

「タグ」の箇所には、半角英数文字で「@top_topic」と記述し、ファイル名のところに「top」と入力、そして「公開」ボタンをクリックします。（ファイル名は特に「top」である必要はありません。ご自分でわかりやすい名前であれば OK です。）

※トピック用の記事を作成する上でポイントなのは、「タグ」の箇所に「@top_topic」と記述することと、トピック用の記事に対して「フォルダ」を用意しない点です。（つまり root 直下にファイルを置きます。）



「ウェブページを保存しました。ウェブページを表示」というメッセージが表示されますが、ここでは、「ウェブページを表示」の箇所のリンクはクリックせず、「サイトの表示」アイコンをクリックします。



サイトが表示され、「トップイメージ」の下に「トピック記事」が表示されたことがわかります。ここでは、仮としてカンパニーの自己紹介的な文章を載せましたが、トピックとして短期間トップページで注目されたいイベントなどの情報を入れたりなど、さまざまな使用用途としてご利用いただけます。



(1-2) ブログでウェブページを作成

次は、ブログにて、ウェブページを作成していきます。ここでは、「メインのブログ」を使用して、ウェブページを作成します。（「ニュースのブログ」でも作成方法は同じです。）

■ STEP 1 : ウェブページ用にフォルダを作成しない場合

先ほどの Movable Type 管理画面より、左上（movabletype のロゴの下）にあるナビゲーションの「First Website」の左側にある矢印をクリックします。ドロップダウンメニューが出てきますので、この中から、「メインのブログ（First Website）」をクリックします。



「メインのブログ」の管理画面に移りますので、左のナビゲーションの「ウェブページ」の右側にある矢印をクリックします。



「ウェブページ」以下のサブメニューが出てきますので、この中より「新規」をクリックします。



「ウェブページの作成」というタイトルのページに移りますので、タイトル、「本文」を入力します。ここでは、「HTML モード」にて本文を<p></p>タグで囲んでいます。

ウェブページのファイル名を意味のある名前にしたい場合は、「ファイル名」の箇所の「編集」ボタンをクリックし、任意の名前を入力します（任意の名前にしない場合は、Movable Typeが自動で設定します）。ここでは、ファイル名は、ウェブページをフォルダに入れずに作成するため、つまり、「メインのブログ」直下にウェブページを作成しますので、「index」以外の名前を入力します。（「メインのブログ」の直下にある「index」のファイル名は既に Movable Type のテンプレートにより使用済みの為「index」は使えません。）逆に、新しくフォルダを作成し、「フォルダ」における初期値としてのページの場合は、ファイル名を「index」と設定します。ここでは、ファイル名として「description」と入力し、「公開」ボタンをクリックします。



「ウェブページを保存しました。ウェブページを表示」とメッセージが出ますので、「ウェブページを表示」のリンクをクリックします。



「商品の概要」ページが「メインのブログ」以下に作成されたことがわかります。

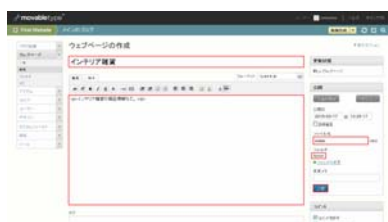


■ STEP2 : ウェブページ用にフォルダを作成する場合

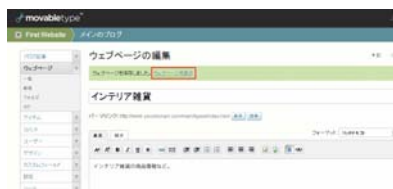
前回の Movable Type 管理画面より、左のナビゲーションの「ウェブページ」以下にあるサブメニューの中の「新規」をクリックします。



「ウェブページの作成」というタイトルのページに移りますので、タイトル、「本文」を入力します。今回は、ウェブページ用にフォルダを作成しますので、右側「公開」メニューにあります「フォルダの変更」をクリックし、フォルダを作成します。ここでは、商品の種類に関するフォルダとしたいので、フォルダ名として「types」と入力します（フォルダの作成方法は、前回「[1-1-1： サービスの内容ページを作成](#)」にて既に説明済ですので、ここでは省略します）。そして、今作成しようとしているウェブページは、このフォルダにおける初期値としてのページにしたいので、ファイル名を「index」とします。「公開」ボタンをクリックします。



「ウェブページを保存しました。ウェブページを表示」とメッセージが出ますので、「ウェブページを表示」のリンクをクリックします。



「メインのブログ」の「types」フォルダ以下に「インテリア雑貨」のウェブページが作成されたことがわかります。



■ フォルダの管理

ブログで作成したウェブページ用のフォルダは、上記「types」フォルダのようにサイドナビに表示されます。これを任意の名前に変更したい場合は、以下の手順で変更します。

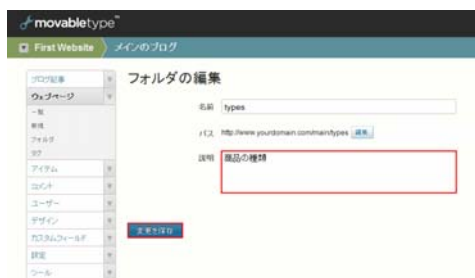
先ほどウェブページを作成した Movable Type の管理画面に戻ります。左のナビゲーションの「ウェブページ」以下にあるサブメニューより「フォルダ」をクリックします。



「フォルダの管理」というページに移りますので、この中の「types」をクリックします。



「フォルダの編集」というページが表示されます。ここの「説明」の箇所に「商品の種類」と入力し、「変更を保存」ボタンをクリックします。



「フォルダを編集しました。 設定を有効にするために再構築してください。」というメッセージが表示されますので、「再構築」のリンクをクリックします。



「メインのブログの再構築」というポップアップウィンドウが表示されますので、「すべてのファイル」を選択し、「再構築」ボタンをクリックします。



「メインのブログを再構築しました。」とメッセージがでますので、「閉じる」ボタンをクリックし、ウィンドウを閉じます。



先ほどの「メインのブログ」の「インテリア雑貨」ページの画面に戻り、画面をリフレッシュします。「types」となっていた箇所が、「商品の種類」と変更されているのがわかります。



※「メインのブログ」におけるウェブページをサイト全体に反映する為に、「First Website」を再構築します。（「First Website」には「メインのブログ」のウェブページがサイドナビに表示されるようになっていきます。）

(1-3) ウェブサイトとブログ：サイドナビのフリーエリアを利用

Comunica Templates では、ウェブサイトとブログのウェブページを利用して、サイドナビのフリーエリアに記事を設けることができます。このフリーエリアに記事を作成する方法は、ウェブサイト、ブログ共に同じですので、ここでは、ウェブサイトのフリーエリアに記事を作成していきたいと思います。

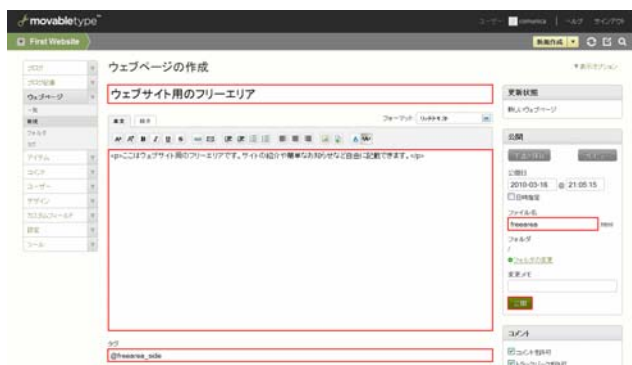
「First Website」の管理画面を表示します。左のサイドナビゲーションの「ウェブページ」の右側にある矢印をクリックし、出てくるサブメニューの中の「新規」をクリックします。



「ウェブページの作成」というタイトルのページに移りますので、タイトルに「ウェブサイト用のフリーエリア」、本文に「<p>ここはウェブサイト用のフリーエリアです。サイトの紹介や簡単なお知らせなど自由に記載できます。</p>」と入力します。ここでは、「HTML モード」で本文を<p></p>タグで囲んで記載しています。

「タグ」の箇所には、半角英数文字で「@freearea_side」と記述し、ファイル名のところに「freearea」と入力、そして「公開」ボタンをクリックします。(ファイル名は特に「freearea」である必要はありません。ご自分でわかりやすい名前であれば OK です。)

※フリーエリア用の記事を作成する上でポイントなのは、「タグ」の箇所に「@freearea_side」と記述することと、フリーエリア用の記事に対して「フォルダ」を用意しない点です。(つまり root 直下にファイルを置きます。)



「ウェブページを保存しました。ウェブページを表示」というメッセージが表示されますが、ここでは、「ウェブページを表示」の箇所のリンクはクリックせず、「サイトの表示」アイコンをクリックします。



サイトが表示され、サイドナビゲーションに今作成した「ウェブサイト用のフリーエリア」の記事が表示されたことがわかります。このようにして、「First Website」、「メインのブログ」、「ニュースのブログ」用に、フリーエリアをそれぞれ作成することができます（作成方法、入力するタグ名など、それぞれのサイトやブログで同じです。）サイトやブログに関連する個別の情報を、それぞれ発信いただけます。



※「ウェブサイト用のフリーエリア」を「First Website」のその他のページに反映する為に、「First Website」を再構築します。

(2) カテゴリメニューの作成

■ MT5.0 系用テーマ・テンプレートを MT5.1 系、MT5.2 系に適用する場合

このテンプレートは、MT5.0 系用のテーマ・テンプレートですが、MT5.1 系、MT5.2 系にも適用することが可能です。MT5.1 系、MT5.2 系に適用する場合、MT5.1 で新規導入されたドラッグ&ドロップによるカテゴリの並び替えを管理画面にて行うことができます。

詳しくは、Movable Type 5 ドキュメントの「カテゴリの作成と管理」をご参照ください。

<http://www.movabletype.jp/documentation/mt5/blogs/category.html>

※MT5.0 系の Movable Type には、ドラッグ&ドロップによるカテゴリの並び替え機能は付いておりませんので、以下の方法をご利用ください。

■ カテゴリの作成

ブログのカテゴリとなるメニューを作成します。Comunica Templates のテーマでは、第 3 階層までカテゴリを作成することができます。ここでは、仮に作成するカテゴリとして、以下のような例で作成していきます。

※カテゴリを作成した場合で、そのカテゴリに対して記事が何も作成されない場合でも、サイドナビにカテゴリメニューが表示されるようにしています。この際、サイドナビのメニューリンクをクリックした先のページは、ブランク（空）となります。

-
- ・ 美術 （出力フォルダ名を art とする） - 第 1 階層
 - ・ 絵画 （出力フォルダ名を paint とする） - 第 2 階層
 - ・ 日本画（出力フォルダ名を japan とする） - 第 3 階層
 - ・ 文芸 （出力フォルダ名を literature とする） - 第 1 階層
 - ・ 詩 （出力フォルダ名を poem とする） - 第 2 階層
-

ここでは、「メインのブログ」を使用して説明を進めていきます。「ニュースのブログ」についてもカテゴリ作成方法自体は同じですので、「ニュースのブログ」での作成方法はここでは省略します。

「メインのブログ」の管理画面を表示します。左のナビゲーションの「ブログ記事」の右側にある矢印をクリックします。



「ブログ記事」以下のサブメニューが表示されますので、この中から「カテゴリ」をクリックします。



「カテゴリの管理」というタイトルのページに移りますので、この中の「トップレベルカテゴリを作成」をクリックします。



カテゴリを作成するテキストボックスが表示されますので、ここに作成したいカテゴリ名を入力します。

ここでは、例に挙げたトップレベルのカテゴリである「美術」を入力します。この時、「美術」の前に「01-」（半角英数文字で入力）を付け加え「01-美術」と入力します。これは、数字でカテゴリの順序を調整する為です。入力し終わったら、右側にある「新規作成」ボタンをクリックします。



次に、同じトップレベルのカテゴリである「文芸」用のカテゴリを作成します。「トップレベルカテゴリを作成」をクリックします。



カテゴリを作成するテキストボックスが表示されますので、ここに「02-文芸」と入力します。入力し終わったら、右側にある「新規作成」ボタンをクリックします。



では、次に、「美術」のサブカテゴリである「絵画」のカテゴリを作成します。これは、「美術」用のサブカテゴリであるので、「01-美術」の欄にある「新規作成」をクリックします。（もしも、「02-文芸」のカテゴリにサブカテゴリを作成する場合は、「02-文芸」の欄にある「新規作成」をクリックします。）



カテゴリを作成するテキストボックスが表示されますので、ここに「01-絵画」と入力し、右側にある「新規作成」ボタンをクリックします。



次に、「絵画」のサブカテゴリである「日本画」のカテゴリを作成します。
「01-絵画」の欄にある「新規作成」をクリックします。



カテゴリを作成するテキストボックスが表示されますので、ここに「01-日本画」と入力し、右側にある「新規作成」ボタンをクリックします。



「詩」のカテゴリ作成が残っていますが、ここで一旦再構築をします。「カテゴリの変更と追加を行いました。設定を有効にするために再構築してください。」とメッセージが出ていますので、「再構築」のリンクをクリックします。



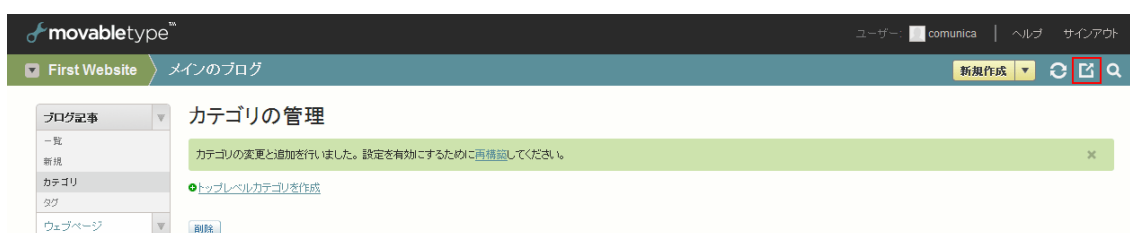
「メインのブログの再構築」というポップアップウィンドウが表示されますので、「すべてのファイル」を選択し、「再構築」ボタンをクリックします。



「メインのブログを再構築しました。」とメッセージがでますので、「閉じる」ボタンをクリックし、ウィンドウを閉じます。



「カテゴリの管理」のページに戻り、「サイトの表示」ボタンをクリックします。



「メインのブログ」のインデックスページが表示され、今ほど作成したカテゴリが、サイドナビとコンテンツ部分に作成されているのがわかります。

「メインのブログ」や「ニュースのブログ」のインデックスページに表示されるカテゴリ（「ニュースのブログ」では表示のされ方が違います）は、サイトのトップページにも表示されます。

また、カテゴリに第2、第3階層などがある場合、カテゴリ用のテンプレート（テンプレート名：ブログ別リスト）によって出力された各カテゴリトップページには、そのカテゴリに属する関連項目として、コンテンツ下にリンクが作成されます。（ここでは、例えば、サイドナビにある「01-美術」をクリックした先のページに「関連項目」が表示されます。）



■ モジュール「説明 x (xは数字)」について

コンテンツ部分に表示されているカテゴリについてですが、タイトル部分は今ほど作成したカテゴリが自動で表示されるようにしていますが、タイトルの下に表示されている箇所には、テンプレートモジュールの内容がくるようにしています。

このテンプレートモジュールは、予め4つ用意されています。モジュール名は「説明1」「説明2」「説明3」「説明4」です。コンテンツ部分に表示されるモジュールの順番は、「説明1」からとなります。ですので、モジュールとカテゴリの内容は決して自動で連結されているわけではなく、カテゴリに対してモジュールの説明内容を設定した後に、カテゴリの並び順を変更した場合、モジュールのタイトル番号（「説明1」などの「1」の部分）を変更してモジュールの順序も変更する必要があります。

また、カテゴリが4つ以上の場合、再構築する前に、新たに「説明x（xは数字）」のモジュールを作成する必要があります。例えば、カテゴリを5つ作成した場合、5つ目のカテゴリ用に「説明5」のモジュールを作成する必要があり、これを作成せずに再構築した場合、該当するモジュールがありません、という内容のエラーが発生しますので気をつけます。

ここでは、これまでに作成した4つのカテゴリに対して、モジュールの内容を入力していきます。

前回の Movable Type の画面（「カテゴリの管理」ページ）より、左のナビゲーションの「デザイン」の右側にある矢印をクリックします。



「デザイン」以下のサブメニューが表示されますので、その中から「テンプレート」をクリックします。



「ブログのテンプレートの管理」というページに移りますので、右側メニューの「クイックフィルタ」より「テンプレートモジュール」をクリックします。

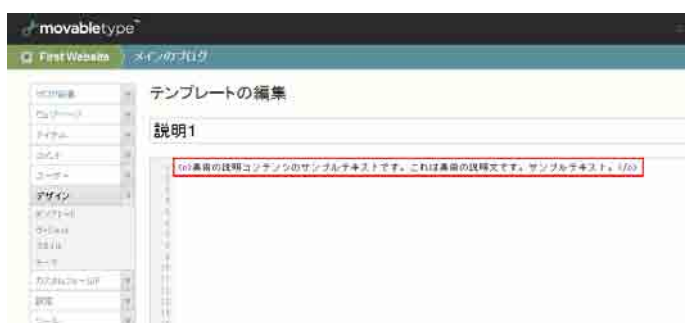


「ブログのテンプレートの管理」の「テンプレートモジュール」セクションが表示されますので、下の方にある「説明 1」をクリックします。



「テンプレートの編集」というタイトルのページに移りますので、「説明 1」のタイトルのコンテンツを編集します。今コンテンツの箇所に「<p>説明 1</p>」とありますが、これを「<p>美術の説明コンテンツのサンプルテキストです。これは美術の説明文です。サンプルテキスト。</p>」と変更し、下にある「変更を保存」ボタンをクリックします。

※モジュールには、文章補助（ワード）機能がありませんので、自身で HTML タグを入力します。ここでは、パラグラフ<p></p>タグで文章を囲います。（HTML の知識が少しあると便利です。）



「テンプレートの変更を保存しました。」とメッセージが出ます。「サイトを再構築」ボタンをクリックして、再構築を行います。



「メインのブログの再構築」というポップアップウィンドウが表示されますので、「すべてのファイル」を選択し、「再構築」ボタンをクリックします。



「メインのブログを再構築しました。」とメッセージがでますので、「閉じる」ボタンをクリックし、ウィンドウを閉じます。



「テンプレートの編集」画面に戻り、「サイトの表示」ボタンをクリックします。



「メインのブログ」のインデックスページが表示され、「説明 1」と記述されていた箇所に、今ほど「説明 1」のモジュールで入力した内容が反映されているのがわかります。

また、これを見るとわかるように、1 つ 1 つのカテゴリ用のボックスの高さが、「説明 x (x は数字)」モジュールに入れた内容により変化します。ですので、ボックス高さの違いによる表示の崩れを避けるため、「説明 x (x は数字)」モジュールにはそれぞれ、同じ文字数、同じ写真画像サイズのものを入れるようにします。



次は、今編集した「説明 1」のモジュールに、美術用の画像を入れたいと思います。

(画像は、予め用意しておきます。画像サイズは、横 310px までで作成してください。高さは自由ですが、その他の「説明」モジュールのものと同じ高さに揃えます。)

Movable Type の「テンプレートの編集」画面に戻り、左のナビゲーションの「アイテム」の右側にある矢印をクリックします。



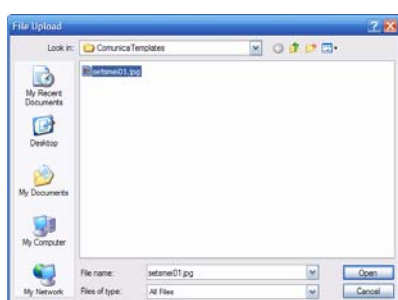
「アイテム」以下のサブメニューが表示されますので、この中から「新規」をクリックします。



「アイテムのアップロード」というタイトルのページに移りますので、「アップロードするファイルを選択」の「Browse」ボタンをクリックします。



ローカルサイドでポップアップウィンドウが表示されますので、アップロードするファイルを選択します。(ここでは、setsumeio1.jpg)



次に「アップロード先」として、＜サイトパス＞以下のテキストボックスに「images」を入力し、「アップロード」ボタンをクリックします。(画像ファイルは、「images」フォルダに入れるようにします。)

※ここでは「フォルダの選択」を利用したフォルダの作成は行いません。理由は、サイドナビに表示されるウェブページのメニュー箇所とサイトマップのページに、画像用として作成したフォルダも表示されてしまうからです。(画像用フォルダはナビゲーション部分やサイトマップには表示したくないため。)



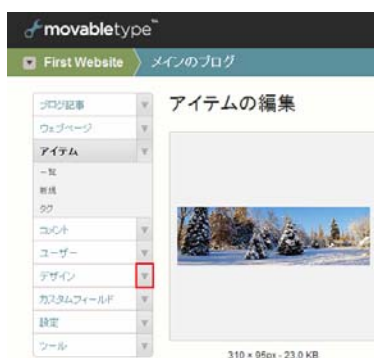
「アイテムの管理」画面に移り、画像がアップロードされたことがわかります。この画像、もしくは、「setsumeio1.jpg」のリンクをクリックします。



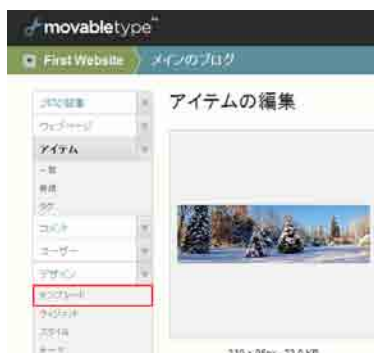
「アイテムの編集」というタイトルのページに移りますので、下の方にある「アイテムの埋め込み」のところの URL を選択し、コピーします。（コピーは「ctr」＋「c」がショートカットですが、URL を選択し、右クリックで Copy でも OK です。）また、画像の縦と横のサイズをメモしておきます。ここでは、横 310px、縦 95px です。



URL をコピーしたら、再び先ほどのモジュール画面に戻ります。左のナビゲーションの「デザイン」の右側にある矢印をクリックします。



「デザイン」以下のサブメニューが表示されますので、その中から「テンプレート」をクリックします。



「ブログテンプレートの管理」ページに移りますので、右側の「クイックフィルタ」より「テンプレートモジュール」をクリックします。



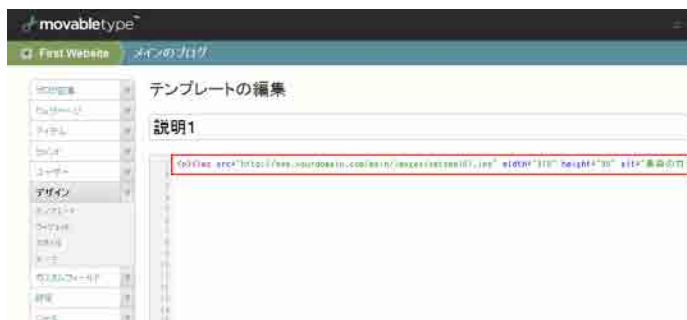
「テンプレートモジュール」セクションが表示されますので、先ほど編集した「説明 1」をクリックします。



「テンプレートの編集」ページに移りますので、タグを追記し、先ほどコピーしておいた画像用の URL を「src」の箇所に貼り付けます。ここでは以下のようにします。(img タグは「/」で閉じます。)

```
<p><br
/>美術の説明コンテンツのサンプルテキストです。これは美術の説明文です。サンプルテキ
スト。</p>
```

上記「src」の箇所には、先ほどコピーした URL を貼り付けます。「width」、「height」の箇所に、メモしておいた数値を入れ、「alt」にこの画像の説明文を入れます。編集が終わったら、ページ下にある「変更を保存」ボタンをクリックします。



「テンプレートの変更を保存しました。」というメッセージが出ますので、「サイトを再構築」をクリックします。



「メインのブログの再構築」というポップアップウィンドウが表示されますので、「すべてのファイル」を選択し、「再構築」ボタンをクリックします。



「メインのブログを再構築しました。」とメッセージがでますので、「閉じる」ボタンをクリックし、ウィンドウを閉じます。



「テンプレートの編集」画面に戻り、「サイトの表示」ボタンをクリックします。



「メインのブログ」のインデックスページが表示され、美術のカテゴリ部分が新しい内容に反映されているのがわかります。このようにして、その他のカテゴリである「絵画」「日本画」「文芸」に対応するモジュールも編集します。（ここでは、説明のステップは省略します。）

また、先述しましたように、1つ1つのカテゴリ用のボックスの高さが、「説明 x (x は数字)」モジュールに入れた内容により変化します。ですので、ボックス高さの違いによる表示の崩れを避けるため、「説明 x (x は数字)」モジュールにはそれぞれ、同じ文字数、同じ写真画像サイズのものを入れるようにします。



次は、残りの「文芸」のサブカテゴリである「詩」のカテゴリを作成します。先ほども述べましたが、5つ目のカテゴリには新しい「説明 x (x は数字)」モジュールが必要ですので、そちらを先に作成します。

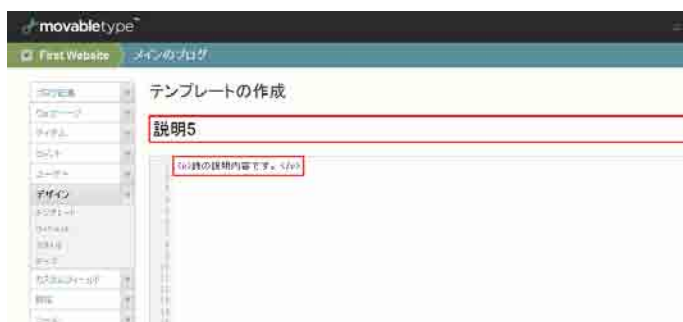
先ほどの Movable Type の画面より、右側「ショートカット」より、「モジュールテンプレート一覧」をクリックします。



「テンプレートモジュール」のセクションが表示されますので、「テンプレートモジュールの作成」をクリックします。



「テンプレートの作成」ページが表示されますので、モジュールのタイトルとして「説明 5」（「5」は半角英数文字です）、コンテンツとして「<p>詩の説明内容です。</p>」と入力し、ページ下にある「保存」ボタンをクリックします。



「テンプレートの変更を保存しました。」というメッセージが表示されますので、「説明 5」のモジュールが作成されたことがわかります。

次に、「詩」のカテゴリを作成します。左のナビゲーションの「ブログ記事」の右側にある矢印をクリックします。



「ブログ記事」以下のサブメニューが表示されますので、その中の「カテゴリ」をクリックします。



「詩」のカテゴリは、「文芸」のカテゴリ以下に作成しますので、「02-文芸」の列にある「新規作成」をクリックします。



「カテゴリの管理」画面が表示されますので、テキストボックスに「01-詩」と入力し、「新規作成」ボタンをクリックします。



「カテゴリの変更と追加を行いました。 設定を有効にするために再構築してください。」とメッセージが出ますので、「再構築」をクリックします。



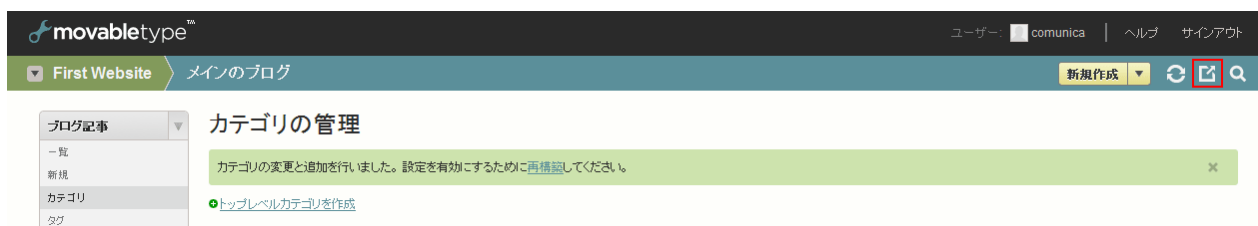
「メインのブログの再構築」というポップアップウィンドウが表示されますので、「すべてのファイル」を選択し、「再構築」ボタンをクリックします。



「メインのブログを再構築しました。」とメッセージがでますので、「閉じる」ボタンをクリックし、ウィンドウを閉じます。



「カテゴリの管理」画面に戻り、「サイトの表示」ボタンをクリックします。



「メインのブログ」のインデックスページが表示され、「詩」のカテゴリがサイドナビ、コンテンツの箇所に出来たことがわかります。



■ サイドナビのカテゴリ名表示とフォルダ名の変更

今現在のカテゴリ表示のままですと、カテゴリ表示の順序を付けるために付け加えた「01-」などの数字がカテゴリ名の前について表示されてしまいますので、これを修正します。

また、カテゴリにマウスオーバーするとわかるように、フォルダ名が「01-」などになっていますので、これを予め決めておいたフォルダ名「art」などに変更します。

前回の Movable Type の画面より、「カテゴリ」の箇所から「01-美術」をクリックします。



「カテゴリの編集」ページに移りますので、この中の「出力ファイル/フォルダ名」のところにある「編集」ボタンをクリックします。



テキストボックスが表示されますので、ここに「art」と入力します。そして、その下にある「説明」の箇所に、「美術」と入力し、ページ下にある「変更を保存」ボタンをクリックします。



次に、「絵画」のカテゴリの分を編集しますので、右側の「ショートカット」より「カテゴリの管理」をクリックします。



「カテゴリの管理」ページに移りますので、この中から「01-絵画」をクリックします。



「カテゴリの編集」ページに移りますので、この中の「出力ファイル/フォルダ名」のところにある「編集」ボタンをクリックします。



テキストボックスが表示されますので、ここに「paint」と入力します。そして、その下にある「説明」の箇所に、「絵画」と入力し、ページ下にある「変更を保存」ボタンをクリックします。



このようにして、その他のカテゴリ「日本画」「文芸」「詩」についても同様に編集していきます。（ここでの Step by Step の解説は省略します。）

最後、「詩」のカテゴリを編集した後、「カテゴリを変更しました。 設定を有効にするために再構築してください。」とメッセージが出てきますので、「再構築」をクリックします。



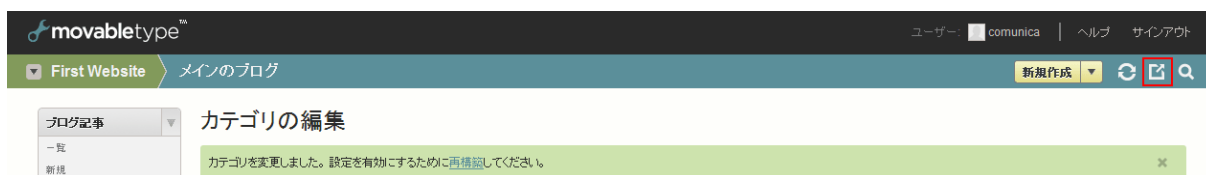
「メインのブログの再構築」というポップアップウィンドウが表示されますので、「すべてのファイル」を選択し、「再構築」ボタンをクリックします。



「メインのブログを再構築しました。」とメッセージがでますので、「閉じる」ボタンをクリックし、ウィンドウを閉じます。



「カテゴリの編集」画面に戻り、「サイトの表示」ボタンをクリックします。



「メインのブログ」のインデックスページが表示され、サイドナビとコンテンツのカテゴリ部分の表示と、それらをマウスオーバーした時にわかるように、フォルダ名が「art」などに変更されたことがわかります。



※「メインのブログ」におけるカテゴリの変更をサイト全体に反映する為に、「First Website」を再構築します。（「First Website」には「メインのブログ」のカテゴリがサイドナビに表示されるようにしています。）

次は、これまでに作成したカテゴリに対して、記事を作成していきます。

(3) ブログ記事の作成

ここでは、「メインのブログ」「ニュースのブログ」において、記事を作成していきます。
後半では、記事に対するタグ付けや画像などのアイテムについてご説明いたします。
まずは、「メインのブログ」に記事を作成します。

■ メインのブログに記事を作成

「メインのブログ」の管理画面を表示します。
左のナビゲーションの「ブログ記事」の右側にある矢印をクリックします。



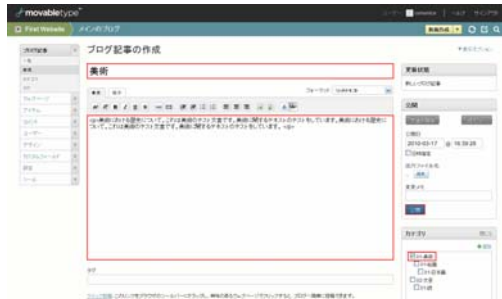
「ブログ記事」以下のサブメニューが表示されますので、この中から「新規」をクリックします。



「ブログ記事の作成」というタイトルのページに移ります。ここでは、「美術」のカテゴリに記事を作成します。

記事のタイトルと「本文」の箇所にテキストを入力し、右側「カテゴリ」メニューの欄に、先ほど作成した「01-美術」がありますので、これにチェックを入れ、「公開」ボタンをクリックします。

※正しいHTML 記述をするには、「HTML モード」 ボタンをクリックし、HTML モードでタグ付けを行うか、「フォーマット」を「なし」にしてHTML のタグ付けをします。これには基本的なHTML の知識が必要ですが、SEO を高める為、重要です。ここでは、本文に入力したパラグラフはHTML の<p>タグで囲んでいます。



「ブログ記事を保存しました。ブログ記事を見る」というコメントが表示されますので、「ブログ記事を見る」をクリックします。



「美術」のカテゴリに作成された記事が表示されます。



その他のページも、「美術」のカテゴリ用に作成したページと同じ要領で作成します（ここでは、説明のステップは省略します）。作成した後は、サイト全体にリンクを反映させるために再構築を行います。（「サイトを再構築」 ボタンをクリックします。）

「メインのブログ」に記事が作成されると、ブログ記事のコンテンツ下、サイドナビの箇所、「メインのブログ」のインデックスページ、そして、サイトのトップページに、最新記事として表示されます。（「メインのブログ」に画像付き記事を作成した場合、サイトのトップページと「メインのブログ」のインデックスページに表示される最新記事には、自動で縮小された画像も一緒に表示されるようになります。）ブログ記事のコンテンツ下における最新記事は10件、サイドナビにおける最新記事は5件、「メインのブログ」のインデックスページにおける最新記事は既定値の10件、サイトのトップページにおける最新記事は3件表示となります。

この内、「メインのブログ」のインデックスページにおける最新記事数である既定値の10件は、Movable Typeの管理画面で件数を変更することができます。ここでは、その方法をご紹介します。

先ほどのMovable Typeの画面より、左のナビゲーションの「設定」の右側にある矢印をクリックします。



「設定」以下のサブメニューが表示されますので、その中から「投稿」をクリックします。



「投稿設定」というタイトルのページに移ります。「公開の既定値」というセクションがあり、その「表示される記事数」という箇所が設定の変更場所となります。今は、既定値の「10 投稿」分が表示されるようになっていますが、これを5件に変更する場合、「10」を「5」に変更します。そして、ページ下にある「変更を保存」ボタンをクリックします。



「設定を保存しました。 設定を有効にするために再構築してください。」とメッセージが表示されますので、「再構築」をクリックします。



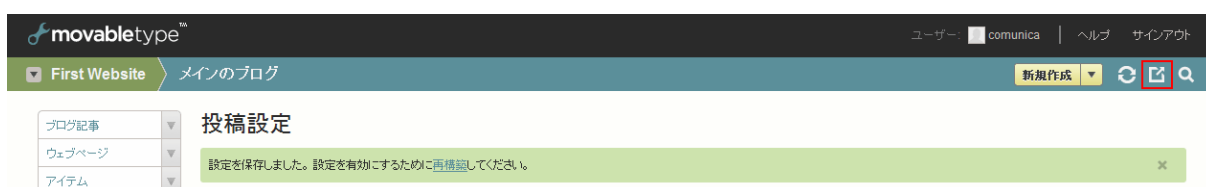
「メインのブログの再構築」というポップアップウィンドウが表示されますので、「すべてのファイル」を選択し、「再構築」ボタンをクリックします。



「メインのブログを再構築しました。」とメッセージがでますので、「閉じる」ボタンをクリックし、ウィンドウを閉じます。



「投稿設定」の画面に戻り、「サイトの表示」をクリックします。



「メインのブログ」のインデックスページが表示されます。最新記事の箇所に、今のところ記事が1件しかないのですが、この変更により、最新記事として表示される記事は5件に修正されました。(記事を5件以上投稿し、ご確認ください。)



※「メインのブログ」における記事の投稿を最新記事としてサイト全体に反映する為に、「First Website」、「ニュースのブログ」を再構築します。（「First Website」、「ニュースのブログ」には「メインのブログ」の最新記事がサイドナビに表示されるようにしています。）

■ ニュースのブログに記事を作成

次に、「ニュースのブログ」に記事を作成していきます。

先ほどの画面より、左上（movabletype のロゴの下）にあるナビゲーションの「First Website」の左側にある矢印をクリックします。ドロップダウンメニューが出てきますので、この中から、「ニュースのブログ（First Website）」をクリックします。



「ニュースのブログ」の「投稿設定」画面に切り替わりますので、左のナビゲーションの「ブログ記事」の右側にある矢印をクリックします。



「ブログ記事」以下のサブメニューが表示されますので、その中の「新規」をクリックします。



「ブログ記事の作成」というタイトルのページに移りますので、タイトル、「本文」を入力します。



前述「[\(2\) カテゴリメニューの作成](#)」において、「ニュースのブログ」には（ステップ省略のため）カテゴリは作成していませんでしたが、ここで記事を作成しつつ、カテゴリを作成したいと思います。

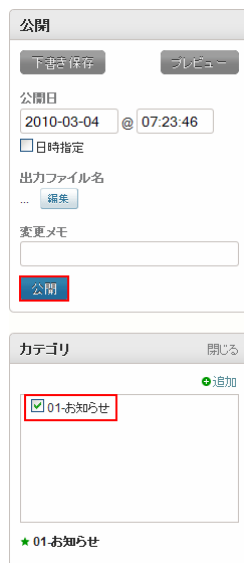
右側の「カテゴリ」メニューにあります緑のプラスマークのところの「追加」をクリックします。



「カテゴリを追加」というメッセージとテキストボックスが表示されますので、ここにカテゴリを入力します。ここでは「01-お知らせ」と入力します。（「[\(2\) カテゴリメニューの作成](#)」でご説明しましたが、カテゴリの順序のために、カテゴリ名の前に「01-」などの数値<半角英数文字>を入れて調整しています。）そして、隣にある緑のプラスマークをクリックします。



「01-お知らせ」カテゴリが作成できたことがわかりますので、「公開」ボタンをクリックします。



公開

下書き保存 プレビュー

公開日
2010-03-04 @ 07:23:46

☐ 日時指定

出力ファイル名
... 編集

変更メモ

公開

カテゴリ 開じる

追加

☒ 01-お知らせ

★ 01-お知らせ

「ブログ記事を保存しました。 ブログ記事を見る」というメッセージが表示されますので、「ブログ記事を見る」をクリックします。



先ほど作成したブログ記事が、「01-お知らせ」カテゴリに作成されたことがわかります。



「01-お知らせ」のカテゴリ表示名、フォルダ名を修正します。変更方法は、「[■ サイドナビのカテゴリ名表示とフォルダ名の変更](#)」で解説したものと同じですので、上記URL先を参考に（ここでは解説のステップは省略します）、カテゴリ名として「お知らせ」、フォルダ名として「info」に変更します。

カテゴリを編集したら、「ニュースのブログ」サイトを再構築します。（再構築ボタンをクリックします。）

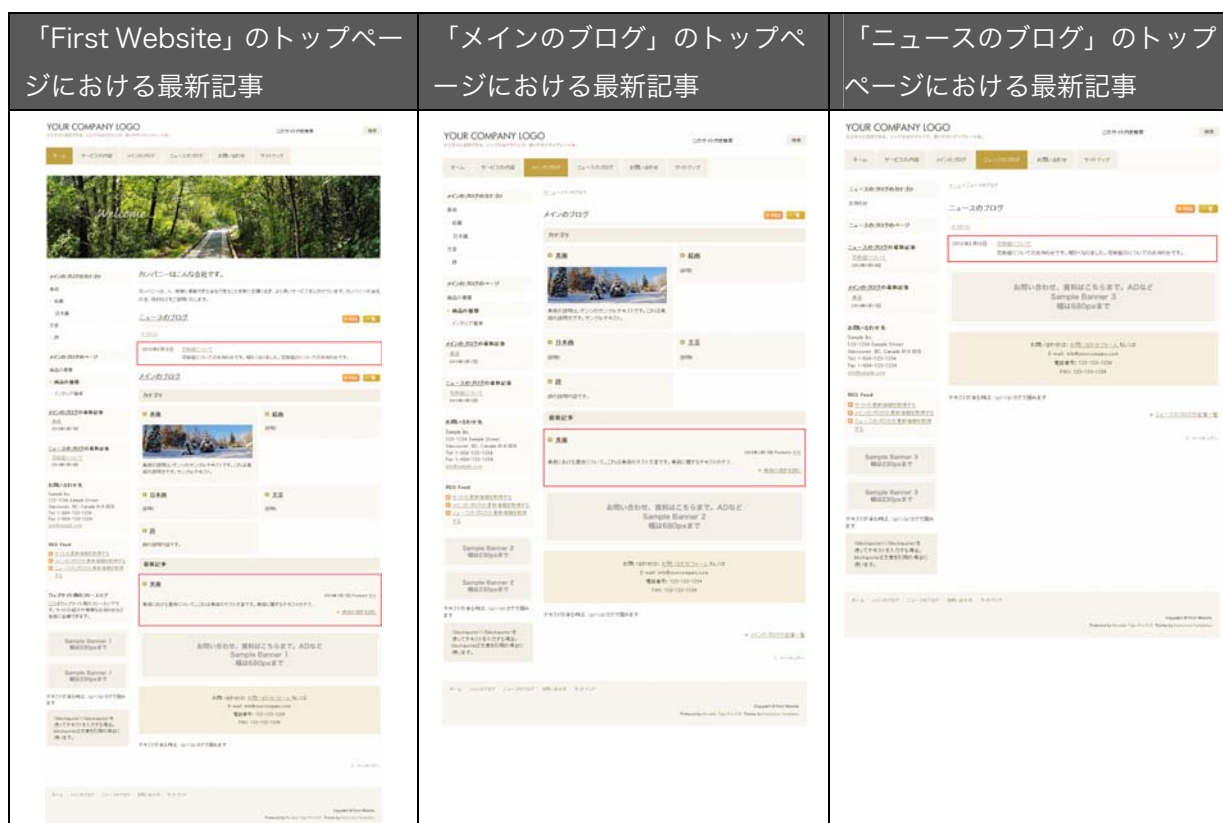
先ほど作成した記事をリフレッシュします。「01-お知らせ」になっていたカテゴリ名が「お知らせ」に、「01-」となっていたフォルダ名が「info」に変更されたことがわかります。



※ 「ニュースのブログ」における記事の投稿を最新記事としてサイト全体に反映する為に、「First Website」、「メインのブログ」を再構築します。（「First Website」、「メインのブログ」には「ニュースのブログ」の最新記事がサイドナビに表示されるようにしています。）

■ 概要について

「First Website」のトップページ、「メインのブログ」、「ニュースのブログ」のトップページには、「メインのブログ」や「ニュースのブログ」の最新記事が来るセクションがあります。そして、これらの記事の内容として、記事の「概要」が来るようになっています。



「メインのブログ」、「ニュースのブログ」で「ブログ記事」を作成する際に、「概要」を入力した場合は、上記ページ上の記事のタイトルの下に「概要」に記述した内容が表示されるようになります。もし、「概要」に何も入力がない場合は、「ブログ記事」の本文から、「投稿設定」で指定した「概要の文字数」（既定値は 40 文字）分が表示されるようになります。

それではこれより「概要」に内容を入力していきます。

今現在、「ニュースのブログ」の管理画面にいますので、「ニュースのブログ」で作成したブログ記事を利用してご説明していきます。（「メインのブログ」においても方法は同じです。）

「ニュースのブログ」の管理画面を表示します。左のナビゲーションの「ブログ記事」の右側にある矢印をクリックします。



「ブログ記事」以下のサブメニューが表示されますので、この中から「一覧」をクリックします。



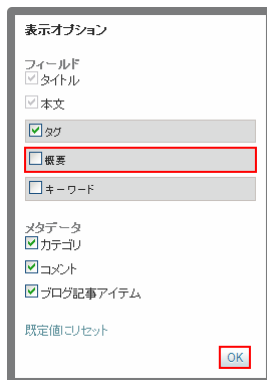
「ブログ記事の管理」というタイトルのページに移りますので、先ほど作成した記事のリンクをクリックします。



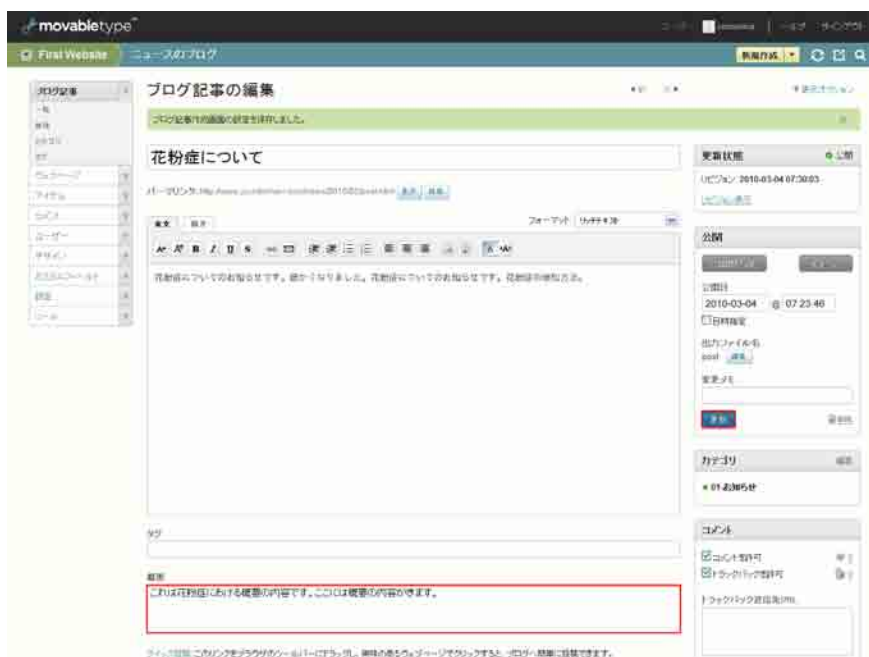
「ブログ記事の編集」ページに移りますが、「概要」を記載する欄がデフォルトでは表示されていませんので、右上にある「表示オプション」をクリックして「概要」欄を表示します。「表示オプション」をクリックします。



「表示オプション」ウィンドウが出ますので、この中の「概要」にチェックを入れ、「OK」ボタンをクリックします。



「ブログ記事の編集」ページに戻り、「ブログ記事作成画面の設定を保存しました。」とメッセージが出ますので「概要」の欄が作成されたことがわかります。この「概要」の欄に、文を入力します。そして、「更新」ボタンをクリックします。



「変更を保存しました。 ブログ記事を見る」というメッセージが出ますが、ここではそちらはクリックせず、「サイトの表示」をクリックします。



「ニュースのブログ」のインデックスページが表示され、記事タイトルの下に「概要」に入力した内容が表示されているのがわかります。



また、このページ上の「ホーム」へのリンクをクリックします。

「ホーム」の「ニュースのブログ」セクションにも、タイトルの下に「概要」の欄で入力した内容が表示されているのがわかります。



■ タグ付け

Movable Type では、「ブログ記事」、「ウェブページ」、「アイテム」に対して「タグ」を付与することができます。タグを付けることで、その「記事」「ウェブページ」もしくは「アイテム」に対し、それらが既に属しているカテゴリとは別の分類機能を持たせることができます。

例えば、これまでにカテゴリとして「美術」「絵画」「文芸」など作成しましたが、それぞれに属する記事に対して、「世紀」に関する「タグ」を付与することで、そのカテゴリの分類を越えた、「世紀」という属性を与えることができます。（カテゴリでの分類が縦の分類とすれば、タグによる分類は横の分類と言うことができます。）

Comunica Templates のテンプレートでは、「ブログ記事」に付けられた「タグ」のみが、サイドナビの「タグクラウド」として表示されるようになっています。「ウェブページ」や「アイテム」に付けられた「タグ」は、「タグクラウド」には表示されません。

また、「タグクラウド」の箇所に表示される「タグ」は、利用頻度の高いものから上位 20 位までが表示されるようになっています。

では、実際に「ブログ記事」に対してタグ付けを行っていきます。ここでは、既に作成している「ブログ記事」に対して「タグ」付けを行っていきます。

「メインのブログ」の管理画面を表示します。左のナビゲーションの「ブログ記事」の右側にある矢印をクリックします。



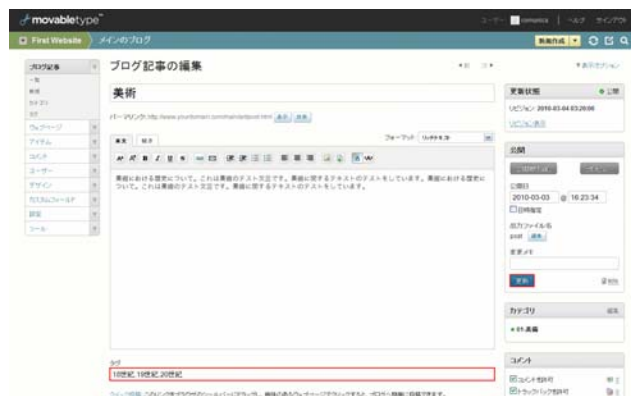
「ブログ記事」以下のサブメニューが表示されますので、この中の「一覧」をクリックします。



「ブログ記事の管理」というタイトルのページが表示されますので、前回作成した「美術」の記事をクリックします。



「ブログ記事の編集」というタイトルのページが表示されます。仮に、この記事には18世紀、19世紀、20世紀に関連する美術の記事が書かれているものとします。「本文」を記述する箇所の下に「タグ」を入力するテキストボックスがあるので、ここに、「18世紀,19世紀,20世紀」と入力します。各フレーズは、半角英数文字のコンマ「,」で区切りながら入力します。入力が終わったら、「更新」ボタンをクリックします。



「変更を保存しました。ブログ記事を見る」というメッセージが表示されますので、「ブログ記事を見る」の箇所のリンクをクリックします。



「美術」の記事が表示されます。コンテンツの下に「この記事の関連タグ」が、そして、サイドナビの箇所に「タグクラウド」が表示されているのがわかります。



※サイドナビに表示される「タグクラウド」をサイト全体に反映する為に、「First Website」「メインのブログ」「ニュースのブログ」を再構築します。

■ アイテムについて

Comunica Templates のテンプレートでは、サイドナビに画像の「アイテム」が表示されるようにしています。その画像は、画像が投稿されたブログ記事にリンクしています。

この「アイテム」ですが、「メインのブログ」における「アイテム」と「ニュースのブログ」における「アイテム」は、別々に表示されるようにしています。

また、サイドナビに画像を表示させるためには、画像にタグを付与する必要があります。1つの記事に対して、例えば2つの画像が投稿され、それぞれに対してサイドナビに表示するためのタグが付与された場合、1つの記事からは1つの画像が選択され（時間的に最新で投稿された方が）表示されるようになっています。

また、サイドナビに表示される画像アイテムは、最新記事9件の中に含まれる画像が表示されます。ですので、例えば、サイドナビに表示されるように付与したタグの画像が、これまでの記事全てにおいて10件分あるとしても、最新記事9件中、タグを付与した画像の記事が5件しかなければ、5件分の画像アイテムしか表示されません。

それでは、ここではブログ記事に対して画像を投稿、その画像にタグを付与し、サイドナビに画像のアイテムが表示されるようにしたいと思います。

先ほどの画面より、今現在調度「ブログ記事の編集」画面にいますので、この「美術」の記事に画像を投稿していきます。「本文」の画像を入れたい場所にカーソルを合わせ、「画像の挿入」ボタンをクリックします。



「画像の挿入」画面が表示されますので、「新しい画像をアップロード」をクリックします。

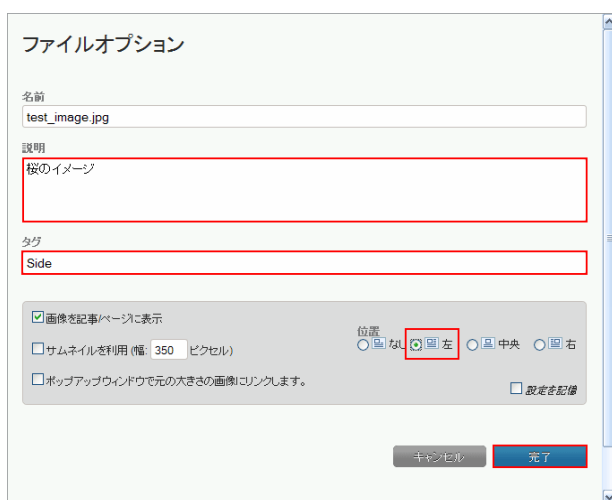


「アップロードするファイルを選択」のところにある「Browse」ボタンをクリックし、自分のローカルフォルダから画像を選択します。そして「アップロード先」のところにある<サイトパス>以下に「images」と入力し、「アップロード」ボタンをクリックします。

前回、「[■ モジュール「説明x \(xは数字\)」について](#)」でご説明しましたが、ここでは「フォルダの選択」を利用したフォルダの作成は行いません。理由は、サイドナビに表示されるウェブページのメニュー箇所とサイトマップのページに、画像用として作成したフォルダも表示されてしまうからです。(画像用フォルダはナビゲーション部分やサイトマップには表示したくないため。)



「ファイルオプション」の画面に移りますので、画像の「説明」を入力し、「タグ」のところに「Side」と半角英数文字で入力します。その他オプションはご自由に設定してください。ここでは、画像を左寄せにしたいので、「位置」として「左」を選択し、「完了」ボタンをクリックします。



「ブログ記事の編集」画面に戻りますので、「更新」ボタンをクリックします。



「変更を保存しました。 ブログ記事を見る」とメッセージが出ますので、「ブログ記事を見る」をクリックします。



「美術」の記事が表示され、コンテンツの箇所にアップロードした画像が、そして、サイドナビに画像がアイテムとして表示されたことがわかります。



※サイドナビに表示される「メインのブログのアイテム」をサイト全体に反映する為に、「First Website」「メインのブログ」「ニュースのブログ」を再構築します。

(4) コメントとトラックバック

Comunica Templates のテーマでは、コメントとトラックバックに Movable Type のデフォルト機能とは少し異なる動作を与えています。

デフォルト機能では、例えば、ある記事に対してコメントが 1 件付いた場合、「ブログ記事の編集」画面で右側の「コメント」メニューにある「コメントを許可」からチェックを外すと、ブログ記事上でコメントフォームは表示されないようになりますが、既に投稿されたコメントはそのまま表示されます。

Comunica Templates のテーマではこの部分を若干編集し、「ブログ記事の編集」画面で右側の「コメント」メニューにある「コメントを許可」からチェックを外すと、コメントフォームと共に、既に投稿されたコメントも含め表示しないようにしています。また、トラックバックに関しても同じ仕様にしています。

(5) SEO 対策(title と meta タグにおける description と keywords)

HTML 文書のヘッダ部分には、その文書がどのような情報を持つページであるのかを、正しくウェブサーバやユーザエージェントに伝えるための情報が記述されています。この為、その情報の中の「タイトル (title)」や「概要 (description)」そして「キーワード (keywords)」に適切なキーワードを含ませることで SEO を意識した記述をすることができます。

HTML 文書のヘッダ部分の「タイトル (title)」、「概要 (description)」、「キーワード (keywords)」は以下の図の赤で囲んだ部分になります。

(ちなみに、通常、「タイトル (title)」は、ウェブブラウザで HTML ファイルを見ている時に、左上にテキストで表示されます。)

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD XHTML 1.0 Transitional//EN"
  "http://www.w3.org/TR/xhtml1/DTD/xhtml1-transitional.dtd">
<html xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml" xml:lang="ja" lang="ja" id="sixapart-standard">
<head>
  <meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=UTF-8" />
  <meta http-equiv="Content-Script-Type" content="text/javascript" />
  <meta http-equiv="Content-Style-Type" content="text/css" />
  <meta name="generator" content="Movable Type Pro 5.01" />

  <title>First Website</title> ← タイトル
  <meta name="description" content="ウェブサイト" /> ← 概要
  <meta name="keywords" content="ビジネスブログ,企業ブログ,テンプレート,Movable Type,CSS" /> ← キーワード

  <link rel="stylesheet" href="http://www.yourdomain.com/css/styles.css" type="text/css" media="screen,tv" />
  <link rel="stylesheet" href="http://www.yourdomain.com/css/font_m.css" type="text/css" media="screen,tv" />
  <link rel="stylesheet" href="http://www.yourdomain.com/css/print.css" type="text/css" media="print" />

  <link rel="alternate" type="application/atom+xml" title="サイトの最新記事のフィード" href="http://www.yourdomain.com/atom.xml" />
  <link rel="EditURI" type="application/rsd+xml" title="サイトのRSD" href="http://www.yourdomain.com/rsd.xml" />

  <link rel="start" href="http://www.yourdomain.com/" title="Home" />
  <link rel="index" href="http://www.yourdomain.com/archives.html" title="Sitemap" />

  <script type="text/javascript" src="http://www.yourdomain.com/mt.js"></script>
</head>
```

これらの「タイトル (title)」、「概要 (description)」、「キーワード (keywords)」の内容は、テンプレートの種類によって記述される内容が異なってきます。(ここで言うテンプレートの種類とは、「インデックステンプレート」、「アーカイブテンプレート」の中の各種テンプレートのことです。)

それでは、各テンプレートによって出力されるページの「title」、「description」、「keywords」が、どこから来ているのかの説明に入ります。

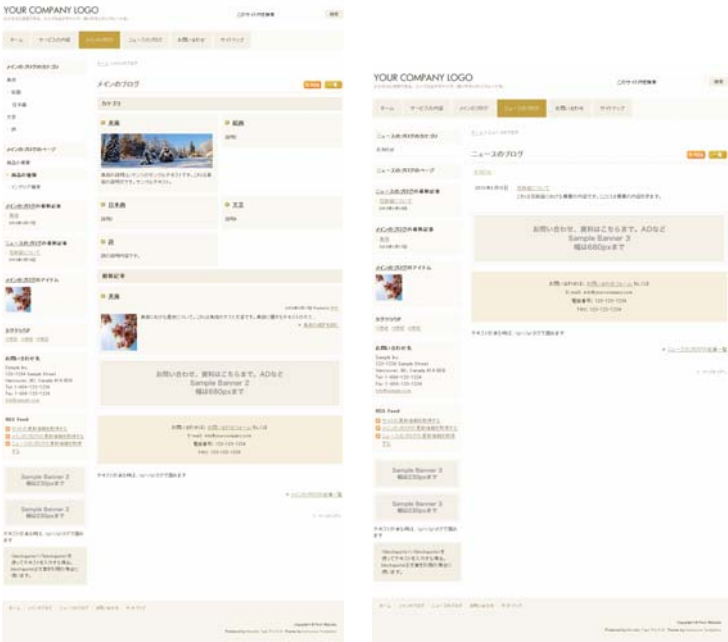
■ ウェブサイトのトップページ（「First Website」の「インデックステンプレート」の「メインページ」によって出力されるページ）の title、description、keywords には

	
Title	「First Website」の「設定」（左のサイドナビゲーションの「設定」>「全般」）における「名前」が title として記述されるようになっています。 また、「First Website」の「設定」（左のサイドナビゲーションの「設定」>「全般」）における「名前」に入力された内容は、サイトのロゴ画像の「alt」（画像の説明）箇所に来るようになっています。ロゴ画像は<h1>タグで囲んでいますので、サイトの名前を設定する際は、SEO を十分に意識したサイト名にすることをお勧めします。
Description	「First Website」の「設定」（左のサイドナビゲーションの「設定」>「全般」）における「説明」が description として記述されるようになっています。
Keywords	「First Website」のテンプレートモジュール（左のサイドナビゲーションの「デザイン」>「テンプレート」>右側「クイックフィルタ」の「テンプレートモジュール」）の「キーワード」の内容が keywords に記述されるようになっています。

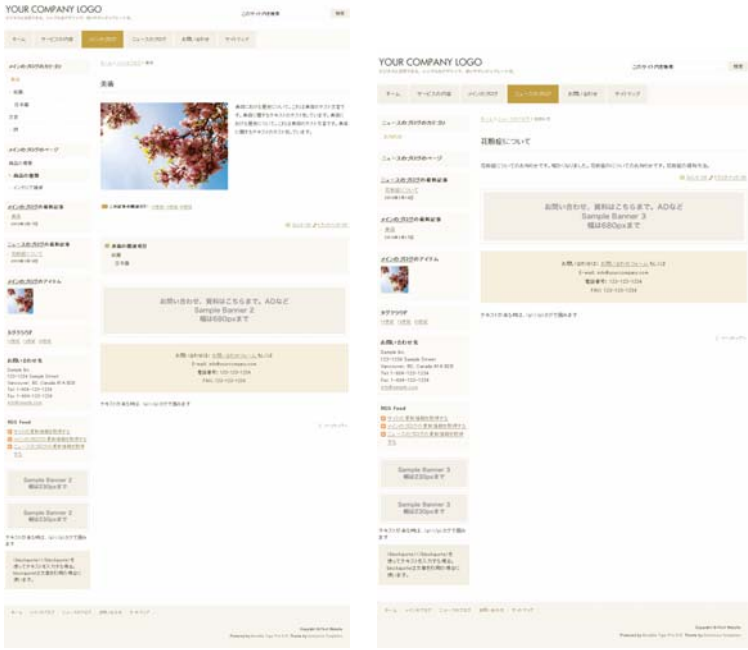
■ ウェブサイトのウェブページ（「First Website」の「アーカイブテンプレート」の「ウェブページ」によって出力されるページ）の title、description、keywords には

	
Title	ウェブページの「タイトル」が title として記述されるようになっていきます。
Description	ウェブページの「概要」に入力した内容、もしくは、「概要」に何も記述がない場合はウェブページの「本文」から、「設定」（左のサイドナビゲーションの「設定」＞「投稿」）箇所で指定した「概要の文字数」分が文字の先頭より description として記述されるようになっていきます。 もしも、「概要」にも「本文」にも記述がない場合は、ウェブページのタイトルが記述されるようになっていきます。
Keywords	ウェブページの「キーワード」として指定した内容が keywords に記述されるようになっていきます。 もしも、ウェブページに「キーワード」の指定がない場合は、「First Website」のモジュールである「キーワード」の内容が記述されるようになっていきます。

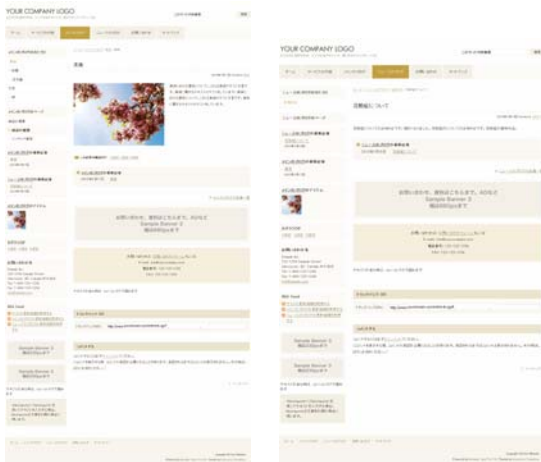
■ 各ブログのトップページ（「メインのブログ」と「ニュースのブログ」の「インデックステンプレート」の「メインページ」によって出力されるページ）の title、description、keywords には

	
Title	「メインのブログ」、「ニュースのブログ」の「設定」（左のサイドナビゲーションの「設定」＞「全般」）における「名前」が title として記述されるようになっています。
Description	「メインのブログ」、「ニュースのブログ」の「設定」（左のサイドナビゲーションの「設定」＞「全般」）における「説明」が description として記述されるようになっています。
Keywords	「メインのブログ」、「ニュースのブログ」のテンプレートモジュール（左のサイドナビゲーションの「デザイン」＞「テンプレート」＞右側「クイックフィルタ」の「テンプレートモジュール」）の「キーワード」の内容が keywords に記述されるようになっています。 もしも、「メインのブログ」、「ニュースのブログ」のモジュールである「キーワード」に何も記述がない場合は、「First Website」のモジュールである「キーワード」の内容が記述されるようになっています。

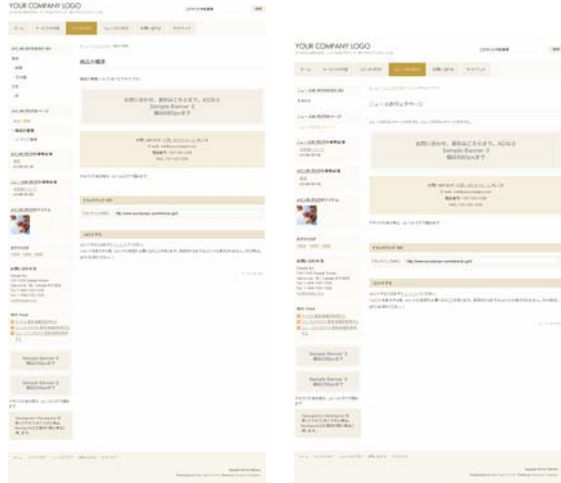
■ 各ブログのカテゴリトップページ（「メインのブログ」と「ニュースのブログ」の「アーカイブテンプレート」の「ブログ記事リスト」によって出力されるページ）の title、description、keywords には

	
Title	記事が属するカテゴリが title として記述されるようになっています。
Description	記事が属するカテゴリが description として記述されるようになっています。
Keywords	記事が属するカテゴリの「説明」（左のナビゲーションの「ブログ記事」>「カテゴリ」の「説明」箇所）がある場合は、「説明」箇所に入力された内容が keywords として記述されるようになっています。 もしも、「説明」がない場合は、記事が属するブログのテンプレートモジュール（左のサイドナビゲーションの「デザイン」>「テンプレート」>右側「クイックフィルタ」の「テンプレートモジュール」）の「キーワード」の内容が keywords に記述されるようになっています。 もしも、記事が属するブログのモジュールである「キーワード」に何も記述がない場合は、「First Website」のモジュールである「キーワード」の内容が記述されるようになっています。

■ 各ブログのブログ記事（「メインのブログ」と「ニュースのブログ」の「アーカイブテンプレート」の「ブログ記事」によって出力されるページ）の title、description、keywords には

	
Title	ブログ記事の「タイトル」が title として記述されるようになっていきます。
Description	ブログ記事の「概要」に入力した内容、もしくは、「概要」に何も記述がない場合はブログ記事の「本文」から、「設定」（左のサイドナビゲーションの「設定」＞「投稿」）箇所指定した「概要の文字数」分が文字の先頭より description として記述されるようになっていきます。 もしも、「概要」にも「本文」にも記述がない場合は、ブログ記事のタイトルが記述されるようになっていきます。
Keywords	ブログ記事の「キーワード」として指定した内容が keywords に記述されるようになっていきます。 もしも、ブログ記事に「キーワード」を指定していない場合は、記事が属するブログのテンプレートモジュール（左のサイドナビゲーションの「デザイン」＞「テンプレート」＞右側「クイックフィルタ」の「テンプレートモジュール」）の「キーワード」の内容が keywords に記述されるようになっていきます。 もしも、記事が属するブログのモジュールである「キーワード」に何も記述がない場合は、「First Website」のモジュールである「キーワード」の内容が記述されるようになっていきます。

■ 各ブログのウェブページ（「メインのブログ」と「ニュースのブログ」の「アーカイブテンプレート」の「ウェブページ」によって出力されるページ）の title、description、keywords には

	
Title	ウェブページの「タイトル」が title として記述されるようになって います。
Description	ウェブページの「概要」として入力した内容、もしくは、「概要」に 何も内容が入力しなかった場合はウェブページの「本文」から、設 定箇所指定した文字数分が先頭より、description として記述さ れるようになっていきます。 もしも、「概要」にも「本文」にも記述がない場合は、ウェブページ のタイトルが記述されるようになっていきます。
Keywords	ウェブページの「キーワード」として指定した内容が keywords に 記述されるようになっていきます。 もしも、ウェブページに「キーワード」の指定がない場合は、ウェ ブページが属するブログのテンプレートモジュール（左のサイドナ ビゲーションの「デザイン」>「テンプレート」>右側「クイック フィルタ」の「テンプレートモジュール」）の「キーワード」の内容 が keywords に記述されるようになっていきます。 もしも、記事が属するブログのモジュールである「キーワード」に 何も記述がない場合は、「First Website」のモジュールである「キ ーワード」の内容が記述されるようになっていきます。

それでは具体的に、各種テンプレートによって出力されるページの title、description、keywords の設定箇所についてご説明します。

■ ウェブサイトのトップページにおける title と description と keywords

まずは、ウェブサイトのトップページにおける「title」と「description」の設定箇所についてです。「First Website」の管理画面を表示します。左のナビゲーションの「設定」の右側にある矢印をクリックし、出てくるサブメニューの中の「全般」をクリックします。



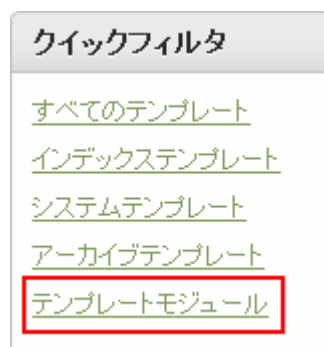
「全般設定」というタイトルのページが表示されます。ここの「ウェブサイト設定」の箇所にある、「名前」が「title」に、「説明」が「description」に記述されることになります。



次は、ウェブサイトのトップページにおける「keywords」の設定箇所に移ります。左のナビゲーションの「デザイン」の右側の矢印をクリックし、出てくるサブメニューの中の「テンプレート」をクリックします。



「ウェブサイトテンプレートの管理」というタイトルのページに移りますので、右側の「クイックフィルタ」より「テンプレートモジュール」をクリックします。



「テンプレートモジュール」のセクションが表示されますので、この中の「キーワード」をクリックします。



「テンプレートの編集」というタイトルのページが表示されますので、ここのテキストエリアにキーワードを記述します。キーワードは、単語を半角英数文字のコンマ「,」で区切りながら入力し、最後のテキストの後は改行せず、余分なスペースを含めないようにします。



■ ウェブサイトのウェブページにおける title と description と keywords

ウェブサイトのウェブページにおける「title」、「description」、「keywords」の設定方法は、「[■ 各ブログのブログ記事におけるtitleとdescriptionとkeywords](#)」で説明する設定方法と基本は同じですので、上記リンク先を参考に設定してください。

■ 各ブログのトップページにおける title と description と keywords

各ブログのトップページにおける「title」、「description」、「keywords」の設定方法は、「[■ ウェブサイトのトップページにおけるtitleとdescriptionとkeywords](#)」で説明した設定方法と基本は同じですので、上記リンク先を参考に設定してください。

■ 各ブログのカテゴリトップページにおける title と description と keywords

各ブログのカテゴリトップページにおける「title」と「description」には、その記事が属するカテゴリの「説明」設定箇所に記述された内容が来るようになっています。もしも、「説明」箇所に記述が無い場合は、カテゴリの「名前」に記述された内容が来るようになっています。

ここでは「メインのブログ」で解説します。（「ニュースのブログ」でも同じなので、ここでは「ニュースのブログ」の解説は省略します。）

「メインのブログ」の管理画面を表示します。左のサイドナビゲーションの「ブログ記事」の右側にある矢印をクリックし、出てくるサブメニューの中の「カテゴリ」をクリックします。



「カテゴリの管理」というページに移りますので、ここでは、前回作成したカテゴリの1つ、「01-美術」をクリックします。



「カテゴリの編集」というページが表示されます。この中の「説明」の箇所に記述がある場合は、これが各ブログのカテゴリトップページの「title」と「description」に記述される内容になります。もしも、「説明」の箇所に何も記述がない場合は、「名前」に入力された内容が、各ブログのカテゴリトップページの「title」と「description」に記述される内容になります。



また、各ブログのカテゴリトップページにおける「keywords」には、その記事が属するカテゴリの「説明」箇所（上記図の「説明」箇所）に記述された内容が来るようになっていますが、もしも、「説明」箇所に何も記述がない場合は、記事が属するブログのテンプレートモジュールにある「キーワード」の内容が来るようになっています。

この「キーワード」については、「[■ 各ブログのトップページにおけるtitleとdescriptionとkeywords](#)」にて設定した「キーワード」の箇所と同じですので、ここではStep by Stepの解説は省略します。

■ 各ブログのブログ記事における title と description と keywords

各ブログのブログ記事における「title」と「description」と「keywords」は、「ブログ記事」を作成する際に記述する項目の内容が来るようになっています。

ここでは、「[\(3\) ブログ記事の作成](#)」で既に作成しているブログ記事に対して、「description」と「keywords」をそれぞれ入力し、SEO対策を行います。※「description」に入力した内容は、ブログ記事の「最新記事」として、各ブログのトップページにも表示されます。

また、「title」にはブログ記事の「タイトル」が来るようになっています。ですので、ブログ記事の「タイトル」を決める際は、SEOを意識し、できるだけ違和感のない程度で、キーワードをタイトルに組み込むことが大切です。これにより、検索エンジン対策としての効果を高めることができます。また、title は、description や keywords よりも SEO 効果が高いため、キーワードをうまく組み込んだタイトルの作成は、とても大切な設定ポイントとなります。

「メインのブログ」の管理画面を表示します。そして、左のサイドナビゲーションの「ブログ記事」の右側にある矢印をクリックし、出てくるサブメニューの中の「一覧」をクリックします。



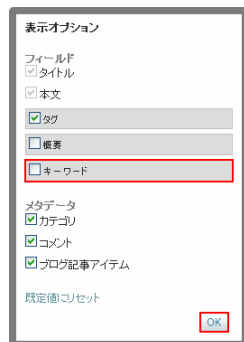
「ブログ記事の管理」というタイトルのページに移りますので、このページに表示されているブログ記事の中から、ここでは、「美術」をクリックします。



「ブログ記事の編集」というタイトルのページが表示されます。デフォルトの状態では、まだ「キーワード」を入力できるテキストボックスが表示されていないので、まずは、これを表示します。右上にある「表示オプション」をクリックします。



「表示オプション」ウィンドウが表示されますので、この中の「キーワード」にチェックを入れ、「OK」ボタンをクリックします。

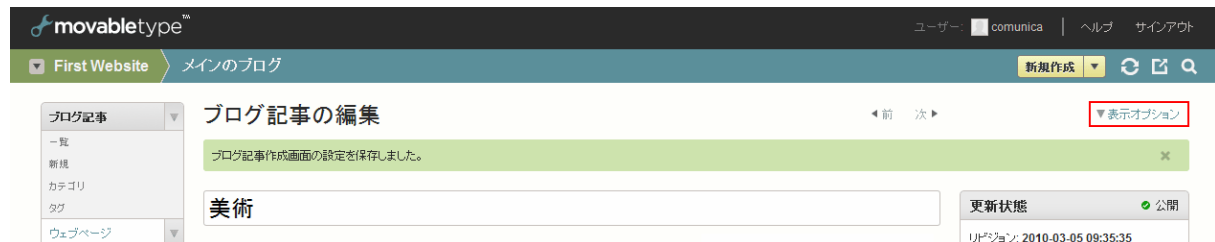


「ブログ記事の編集」画面に、「ブログ記事作成画面の設定を保存しました。」とメッセージが表示され、「キーワード」用のテキストボックスが表示されたことがわかります。このテキストボックスに、「キーワード」を入力します。単語を半角英数文字のコンマ「,」で区切りながら入力します。(最後の単語の後ろにコンマ「,」は必要ありません。)

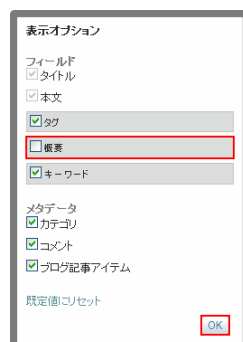


次に、「description」である「概要」にテキストを入力します。

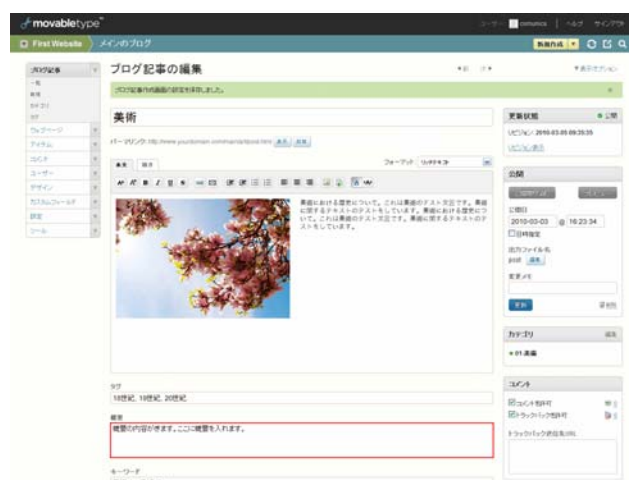
デフォルトの状態では、「概要」の欄は管理画面に表示されていませんので、「キーワード」の時のように、これを表示するところから始めます。同ページ右上に「表示オプション」リンクがありますので、これをクリックします。



「表示オプション」ウィンドウが表示されますので、この中の「概要」にチェックを入れ、「OK」ボタンをクリックします。



「ブログ記事作成画面の設定を保存しました。」というメッセージが表示されますので、ページ下方に「概要」欄が新たに加えられたことがわかります。ここに、このページの「概要」となるテキストを入力します。



もしも「概要」のテキストエリアに何も記述が無い場合は、「概要の文字数」で設定した文字数分が本文から引用され、「description」として表示されます。この「概要の文字数」を確認するには、左のサイドナビゲーションの「設定」の右側にある矢印をクリックし、出てくるサブメニューの中の「投稿」をクリックします。



「投稿設定」というタイトルのページに移ります。このページの「公開の既定値」の中に「概要の文字数」という箇所があります。このテキストボックスに設定されている文字数分の本文が「概要」として表示されるようになります。

「description」として設定する文字数があまりにも長すぎると、検索エンジンサイトによる評価が下がってしまいますので、40～100文字程度を目安に設定します。



■ 各ブログのウェブページにおける title と description と keywords

各ブログのウェブページにおける「title」、「description」、「keywords」の設定方法は、「[各ブログのブログ記事におけるtitleとdescriptionとkeywords](#)」で説明した設定方法と基本は同じですので、上記リンク先を参考に設定してください。

※「First Website」、「メインのブログ」、「ニュースのブログ」において、テンプレートモジュールやブログの設定を変更した場合は、必ず両サイトにおいて、サイトを再構築し、変更した箇所をサイト全体に反映します。

(6) ウィジェットについて

Comunica Templates のテンプレートでは MT5 より、それぞれのサイト、ブログに対して、ウィジェットに対応しています。ウィジェットを利用することで、ウェブサイト、各ブログにあるサイドナビゲーションのカテゴリや最新記事など、また、サイト、各ブログのトップページのコンテンツの並び順などを簡単に変更することができます。ここでは、どの部分がウィジェットに対応している箇所と内容で、どのような変更が行えるのかについて解説します。

■ 「First Website」の共通部分におけるウィジェットセット対応箇所とウィジェットの内容

「First Website」の共通部分で対応しているウィジェットセットは、「2 カラムのサイドバー」と「ヘッダー右」の箇所です。また、テンプレートのモジュールである「ヘッダー」と「フッター」には、SEO 設定としての「head 要素」と「アクセス解析要素」のウィジェットセットがあります。

「First Website」の共通部分	ウィジェットセット名	ウィジェット名
	2 カラムのサイドバー	サイド ナビカテゴリ Main, サイド ナビページ Main, サイド 最新記事 Main, サイド 最新記事 News, サイド アイテム Main, サイド アイテム News, サイド タグクラウド, サイド お問い合わせ先, サイド RSS フィード, サイド フリーエリア 1, サイド フリーエリア 2 (予備として: サイド 検索)
	ヘッダー右	ヘッダー 検索 (入れ替え用として: ヘッダー フリーエリア)
テンプレート名: ヘッダー	head 要素	ウェブマスターツール
テンプレート名: フッター	アクセス解析要素	グーグルアナリティクス

■ 「First Website」のトップページにおける（共通部分以外の）ウィジェットセット対応箇所とウィジェットの内容

「First Website」のトップページ（共通部分以外）で対応しているウィジェットセットは、「トップのコンテンツ」箇所です。

「First Website」の トップページ	ウィジェットセット名	ウィジェット名
	トップのコンテンツ	トップ Topic, トップ News ヘッダー, トップ News カテゴリ, トップ News 記事, トップ Main ヘッダー, トップ Main カテゴリ, トップ Main 記事, コンテンツ フリーエリア

■ 「メインのブログ」の共通部分におけるウィジェットセット対応箇所とウィジェットの内容

「メインのブログ」の共通部分で対応しているウィジェットセットは、「2 カラムのサイドバー」と「ヘッダー右」の箇所です。また、テンプレートのモジュールである「ヘッダー」と「フッター」には、SEO 設定としての「head 要素」と「アクセス解析要素」のウィジェットセットがあります。

「メインのブログ」の共通部分	ウィジェットセット名	ウィジェット名
	2 カラムのサイドバー	サイド ナビカテゴリ Main, サイド ナビページ Main, サイド 最新記事 Main, サイド 最新記事 News, サイド アイテム Main, サイド アイテム News, サイド タグクラウド, サイド お問い合わせ先, サイド RSS フィード, サイド フリーエリア 1, サイド フリーエリア 2 (予備として： サイド 検索)
	ヘッダー右	ヘッダー 検索 (入れ替え用として： ヘッダー フリーエリア)
テンプレート名：ヘッダー	head 要素	ウェブマスターツール
テンプレート名：フッター	アクセス解析要素	グーグルアナリティクス

■ 「メインのブログ」のトップページにおける（共通部分以外の）ウィジェットセット対応箇所とウィジェットの内容

「メインのブログ」のトップページ（共通部分以外）で対応しているウィジェットセットは、「トップのコンテンツ」箇所です。

「メインのブログ」のトップページ	ウィジェットセット名	ウィジェット名
	トップのコンテンツ	トップ Main カテゴリ, トップ Main 記事, コンテンツ フリーエリア

■ 「ニュースのブログ」の共通部分におけるウィジェットセット対応箇所とウィジェットの内容

「ニュースのブログ」の共通部分で対応しているウィジェットセットは、「2 カラムのサイドバー」と「ヘッダー右」の箇所です。また、テンプレートのモジュールである「ヘッダー」と「フッター」には、SEO 設定としての「head 要素」と「アクセス解析要素」のウィジェットセットがあります。

「ニュースのブログ」の共通部分	ウィジェットセット名	ウィジェット名
	2 カラムのサイドバー	サイド ナビカテゴリ News, サイド ナビページ News, サイド 最新記事 News, サイド 最新記事 Main, サイド アイテム News, サイド アイテム Main, サイド タグクラウド, サイド お問い合わせ先, サイド RSS フィード, サイド フリーエリア 1, サイド フリーエリア 2 (予備として: サイド 検索)
	ヘッダー右	ヘッダー 検索 (入れ替え用として: ヘッダー フリーエリア)
テンプレート名: ヘッダー	head 要素	ウェブマスターツール
テンプレート名: フッター	アクセス解析要素	グーグルアナリティクス

■ 「ニュースのブログ」のトップページにおける（共通部分以外の）ウィジェットセット対応箇所とウィジェットの内容

「ニュースのブログ」のトップページ（共通部分以外）で対応しているウィジェットセットは、「トップのコンテンツ」箇所です。

「ニュースのブログ」の トップページ	ウィジェットセット名	ウィジェット名
	トップのコンテンツ	トップ News カテゴリ, トップ News 記事, コンテンツ フリーエリア

■ 「First Website」、「メインのブログ」、「ニュースのブログ」のウェブページや、各カテゴリのトップページ、そして、エントリーページにおける（共通部分以外の）ウィジェットセット対応箇所とウィジェットの内容

「First Website」、「メインのブログ」、「ニュースのブログ」のウェブページや、各カテゴリのトップページ、そして、エントリーページ（共通部分以外）で対応しているウィジェットセットは、「コンテンツ要素」の箇所です。「コンテンツ要素」は、記事の下に来るようにしています。

以下の例は「First Website」の ウェブページ	ウィジェットセット名	ウィジェット名
	コンテンツ要素	コンテンツ フリーエリア

■ ウィジェットの変更方法：ウィジェットセット「ヘッダー右」の場合

ここでは、「First Website」にて、各ウィジェットセットにおけるウィジェットの変更方法をご説明したいと思います。「メインのブログ」においても、「ニュースのブログ」においても、変更方法は同じですので、これらのブログにおける Step by Step の説明は省略します。

「First Website」の管理画面を表示します。左側のサイドナビゲーションの「デザイン」の右側にある矢印をクリックし、出てくるサブメニューの中の「ウィジェット」をクリックします。



「ウェブサイトウィジェットの管理」のページに移り、ウィジェットセットとウィジェットが表示されます。ここでは、まず「ヘッダー右」のウィジェットセットからご説明します。「ウィジェットセット」の中の「ヘッダー右」をクリックします。



「ウィジェットセットの編集」ページに移ります。左側の「インストール済み」の欄に、今サイトで既に利用されている「ヘッダー検索」があります。右側の「利用可能」の欄にあるウィジェットは、いつでも利用可能な状態にあるウィジェットのリストです。ですが、この「利用可能」の欄にある全てのウィジェットを「ヘッダー右」のウィジェットセットに利用できるわけではありません。

「ヘッダー右」のウィジェットセット内に利用できるウィジェットは、「ヘッダー 検索」もしくは、「ヘッダー フリーエリア」のどちらか1つです。「ヘッダー検索」と「ヘッダー フリーエリア」を同時に「ヘッダー右」のウィジェットセット内に設定することは出来ません。

ウィジェットセット名	利用できるウィジェット
ヘッダー右	ヘッダー 検索（どちらか1つ）
	ヘッダー フリーエリア（どちらか1つ）



ここでは、「ヘッダー 検索」と「ヘッダー フリーエリア」を入れ替えたいと思います。「ヘッダー 検索」を「利用可能」の欄へ、「ヘッダー フリーエリア」を「インストール済み」の欄に移動します。そして、ページ下にある「変更を保存」ボタンをクリックします。



「ウィジェットセットの変更を保存しました。」というメッセージが表示されますので、サイトを再構築します。（「サイトを再構築」ボタンをクリックします。）



再構築が終わったら、「サイトの表示」ボタンをクリックします。



「First Website」のトップページが表示され、「ヘッダー右」の箇所に「ヘッダー フリーエリア」の内容が表示されたことがわかります。



この「ヘッダー フリーエリア」の内容を変更するには、「ウィジェット」を編集する必要があります。先ほどの Movable Type の画面に戻り、「インストール済み」欄の方に移動した「ヘッダー フリーエリア」の「編集」のところをクリックします。



「ウィジェットの編集」画面が開き、「ヘッダー フリーエリア」の詳細が表示されます。既に「ヘッダー フリーエリア」用のレイアウトとして、`<div class="freearea pkg"></div>`のボックスが用意されていますので、これは削除せずに、この中を編集します。
※編集の際は、基本的な HTML の知識があると良いです。

<div class="freearea pkg"></div>のボックスサイズは、横 480px、縦 60px（縦は目安）です。ですので、この範囲を超えない程度で、テキストや画像（バナーなど）を入力します。テキストを編集するだけであれば、<p></p>（パラグラフ）タグの中にテキストを入力します。改行は、
で行います。画像などのバナーだけを入れる際は、<p></p>（パラグラフ）タグは省き、<div class="freearea pkg"></div>の中にタグを直接入れていただいても構いません。

例：<div class="freearea pkg"><p>ビジネスのことなら YourCompany!
</p></div>

では、ここでは上記のコード例のように、テキストと画像を入れ合わせたヘッダーにしたいと思います。実際に画像をアップロードするところからご説明します。（画像は、幅 480px 縦 60px 以内で準備をしておきます。私が用意しているのは、幅 180px 縦 52px の画像です。）ここでは、画像とテキストを合わせた場合をご説明しますが、ご自分で設定の際は、画像だけ、テキストだけ、など、ご自由に設定ください。

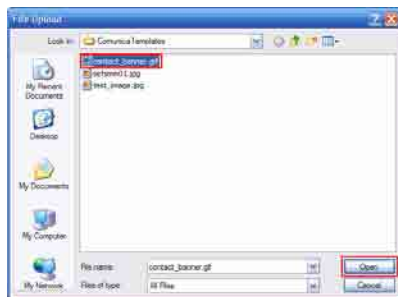
左のサイドナビゲーションの「アイテム」の右側にある矢印をクリックし、出てくるサブメニューの中の「新規」をクリックします。



「アイテムのアップロード」の画面に移りますので、「アップロードするファイルを選択」の「Browse」ボタンをクリックします。



ローカルサイドでポップアップウィンドウが表示されますので、アップロードするファイルを選択します。（ここでは、contact_banner.gif）



次に「アップロード先」として、＜サイトパス＞以下のテキストボックスに「images」を入力し、「アップロード」ボタンをクリックします。（画像ファイルは、「images」フォルダに入れるようにします。）

※ここでは「フォルダの選択」を利用したフォルダの作成は行いません。理由は、サイトマップのページに、画像用として作成したフォルダも表示されてしまうからです。（画像用フォルダはサイトマップには表示したくないため。）



「アイテムの管理」画面に移り、画像がアップロードされたことがわかります。この画像、もしくは、「contact_banner.gif」のリンクをクリックします。



「アイテムの編集」画面に移りますので、下の方にある「アイテムの埋め込み」のところの URL を選択し、コピーします。（コピーは「ctr」＋「c」がショートカットですが、URL を選択し、右クリックで Copy でも OK です。）また、画像の縦と横のサイズをメモしておきます。ここでは、横 180px、縦 52px です。



URL をコピーしたら、再び先ほどの（ページが開いたままになっている）「ウィジェットセットの編集」画面に戻ります。「ヘッダー フリーエリア」の「編集」をクリックします。



「ヘッダー フリーエリア」の画面が開きますので、この<div class="freearea pkg"></div>ボックス内を修正、以下のように入力し、ページ下方にある「変更を保存」ボタンをクリックします。

```
<div class="freearea pkg">
  <p>ビジネスのことなら YourCompany!<br />
  </p>
</div>
```



「テンプレートの変更を保存しました。」とメッセージが表示されますので、サイトを再構築します。（再構築ボタンをクリックします。）

First Website を再構築し終わりましたら、「サイトの表示」ボタンをクリックし、サイトを確認します。



「First Website」のトップページが表示され、「ヘッダー右」の箇所の内容が変更されたことがわかります。



さて、ここで「ヘッダー右」の箇所が新しい内容に変わったことで、サイトに検索機能がなくなりましたので、これを補うため、サイドナビ用に控えとして用意してあるサイドナビ用の検索ウィジェットを導入したいと思います。ここからは、その説明に入ります。

■ ウィジェットの変更方法：ウィジェットセット「2 カラムのサイドバー」の場合

先ほどの（ページが開いたままになっている）「ウィジェットセットの編集」画面に戻ります。
左のサイドナビゲーションの「ウィジェット」をクリックします。



「ウェブサイトウィジェットの管理」のページに移りますので、「2 カラムのサイドバー」をクリックします。



「ウィジェットセットの編集」画面に移ります。左側の「インストール済み」の欄には、今サイトで既に利用されているウィジェットがあります。右側の「利用可能」の欄にあるウィジェットは、いつでも利用可能な状態にあるウィジェットのリストです。ですが、この「利用可能」の欄にある全てのウィジェットを「2 カラムのサイドバー」のウィジェットセットに利用できるわけではありません。

「First Website」の「2 カラムのサイドバー」のウィジェットセット内に利用できるウィジェットは、「サイド ナビカテゴリ Main」、「サイド ナビページ Main」、「サイド 最新記事 Main」、「サイド 最新記事 News」、「サイド アイテム Main」、「サイド アイテム News」、「サイド タグクラウド」、「サイド お問い合わせ先」、「サイド RSS フィード」、「サイド フリーエリア 1」、「サイド フリーエリア 2」そして、予備のウィジェットとして「利用可能」の欄にある「サイド 検索」があります。

ウィジェットセット名	利用できるウィジェット
2 カラムのサイドバー	サイド ナビカテゴリ Main
	サイド ナビページ Main
	サイド 最新記事 Main
	サイド 最新記事 News
	サイド アイテム Main
	サイド アイテム News
	サイド タグクラウド
	サイド お問い合わせ先
	サイド RSS フィード
	サイド フリーエリア 1
	サイド フリーエリア 2
	サイド 検索（予備として）



先ほど「ヘッダー右」のウィジェットセットのところで、ヘッダー部分から検索機能をなくしましたので、サイドナビに検索機能を付け加えたいと思います。

※検索機能のウィジェット（「サイド 検索」）は、ウィジェットセットの「ヘッダー右」もしくは、「2 カラムのサイドバー」の、どちらか 1 つの方に備え付けください。理由は、「ヘッダー右」用、「2 カラムのサイドバー」用の「検索」のコードは基本が同じです（コード自体は若干異なる部分がありますが）、両方の箇所に検索機能が同時に設置された場合、タグ内に設けているアクセシビリティ用の順番などが重複してします。よって、この重複することによるアクセシビリティの低下を避けるため、**どちらか 1 箇所（ヘッダーかサイドナビどちらか）に「検索」機能を置くようにします。**

「利用可能」の欄の方から「サイド 検索」をドラッグし、左の「インストール済み」の欄に移動させます。「インストール済み」欄の方では、上からの順番でサイドナビの方にも表示されますので、ここでは、サイドナビの一番上（「サイド ナビカテゴリ Main」の上）に「サイド 検索」を置きたいと思います。移動したら、「変更を保存」ボタンをクリックします。



「ウィジェットセットの変更を保存しました。」とメッセージが出ますので、サイトを再構築します。(再構築ボタンをクリックします。)



再構築が終わったら、「サイトの表示」ボタンをクリックします。



「First Website」のトップページが表示され、検索機能がサイドナビの上部に付け加えられたことがわかります。



次にご説明したいのが、「2 カラムのサイドバー」内にあるウィジェット「サイド フリーエリア 2」です。

「サイド フリーエリア 2」は、サイドナビ下部にある「Sample Banner1」などのバナーやテキストが来ている部分です。「サイド フリーエリア 2」は、「サイド フリーエリア 1」と異なり、ウェブページで作成されておらず、ウィジェットを直接編集する必要があります。

※「サイド フリーエリア 1」は、「[\(1-3\) ウェブサイトとブログ：サイドナビのフリーエリアを利用](#)」の箇所です。



前回の Movable Type の画面より、「サイド フリーエリア 2」の「編集」をクリックします。



「ウィジェットの編集」ページが開きますので、<div class="box2 pkg"><div class="inner"></div></div>で囲まれている内部を変更します。このエリアに掲載できるバナーのサイズは、幅 230px までです。（高さは自由です。）



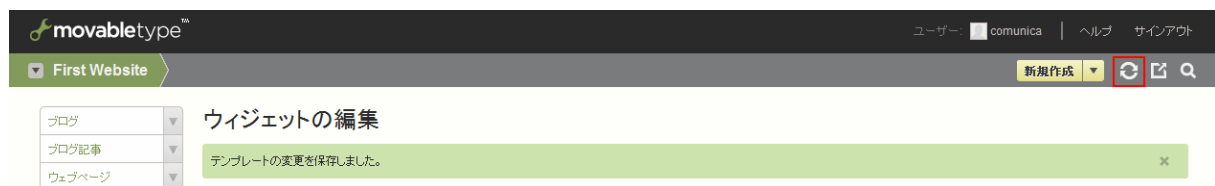
ここでは、<div class="box2 pkg"><div class="inner"></div></div>内にあるバナーを変更したいと思います。バナー画像のアップロード方法は、「[■ ウィジェットの変更方法：ウィジェットセット「ヘッダー右」の場合](#)」の後半をご参照ください。ここでは、

「banner_staffblog.gif」という画像をアップロードしました。この画像のサイズは、幅 230px 縦 80px です。コードは以下のように変更し、ページ下方の「変更を保存」ボタンをクリックします。（画像は、タグの中のからタグの中に入れます。画像がもう 1 枚ある場合は、を追加します。）

```
<div class="box2 pkg"><div class="inner">
<ul>
<li><a href="http://www.comunicatemplates.com/"></a></li>
</ul>
<p>スタッフブログはほぼ毎日更新しています！</p>
</div></div>
```



「テンプレートの変更を保存しました。」とメッセージが出ますので、サイトを再構築します。（再構築ボタンをクリックします。）



再構築が終わったら、「サイトの表示」ボタンをクリックします。



「First Website」のトップページが表示され、変更したバナーがサイドナビの下部に表示されたことがわかります。



ここでご説明した「サイド 検索」、「サイド フリーエリア 2」以外のウィジェットも、「ウィジェットセットの編集」画面にて順番を変更させたり、不必要なものは「利用可能」の欄に移動させたりなどして、ご利用ください。

※ウィジェットは、ウェブサイト、各ブログと、個別に対応しているので、「First Website」で指定したバナーを他の場所（「メインのブログ」や「ニュースのブログ」）でも使用したい場合は、「メインのブログ」、「ニュースのブログ」の方にも設定する必要があります。逆に、「First Website」には表示したいが、「メインのブログ」、「ニュースのブログ」の方には表示したくない場合などにも、柔軟に設定できます。

■ ウィジェットの変更方法：ウィジェットセット「トップのコンテンツ」の場合

次は、「First Website」のトップページにおけるウィジェットセット「トップのコンテンツ」の変更方法について、説明に入ります。

先ほどの Movable Type の画面より、左のサイドナビゲーションの「ウィジェット」をクリックします。



「ウェブサイトウィジェットの管理」のページに移りますので、「トップのコンテンツ」をクリックします。



「トップのコンテンツ」の「ウィジェットセットの編集」画面に移ります。左側の「インストール済み」の欄にあるウィジェットが、今現在サイト上で既に使用されているウィジェットです。右側の「利用可能」の欄にあるウィジェットは、いつでも利用可能な状態にあるウィジェットですが、今回の「トップのコンテンツ」に利用できるウィジェットはなく、「トップのコンテンツ」では、デフォルトで「インストール済み」の欄にあるウィジェットのみご利用いただけます。

「First Website」の「トップのコンテンツ」のウィジェットセット内に利用できるウィジェットは、「トップ Topic」、「トップ News ヘッダー」、「トップ News カテゴリ」、「トップ News 記事」、「トップ Main ヘッダー」、「トップ Main カテゴリ」「トップ Main 記事」、「コンテンツ フリーエリア」です。

ウィジェットセット名	利用できるウィジェット
トップのコンテンツ	トップ Topic
	トップ News ヘッダー
	トップ News カテゴリ
	トップ News 記事
	トップ Main ヘッダー
	トップ Main カテゴリ
	トップ Main 記事
	コンテンツ フリーエリア



ここでは、「トップのコンテンツ」の順序を変更したいと思います。仮の例として、「インストール済み」欄の「トップ Topic」を一番下に、「コンテンツ フリーエリア」を一番上に持って行きます。変更が終わったら、ページ下方にある「変更を保存」ボタンをクリックします。



「ウィジェットセットの変更を保存しました。」とメッセージが出ますので、サイトを再構築します。（再構築ボタンをクリックします。）



再構築が終了したら、「サイトの表示」をクリックします。



「First Website」のトップページが表示され、「コンテンツ フリーエリア」が一番上に、「トップ Topic」が一番下に移動したことがわかります。



■ ウィジェットの変更方法：ウィジェットセット「コンテンツ要素」の場合

「First Website」のウェブページ、「メインのブログ」、「ニュースのブログ」の記事やウェブページのコンテンツ下には、「コンテンツ要素」というウィジェットセットが来るようになっています。この「コンテンツ要素」には、「コンテンツ フリーエリア」というウィジェットがあり、お問い合わせ/資料申し込みなどのバナーを配置したり、Google などの AD を載せたりすることができます。

※ウィジェットセット「コンテンツ要素」に含まれるウィジェット「コンテンツ フリーエリア」は、前述のウィジェットセット「トップのコンテンツ」に含まれるウィジェット「コンテンツ フリーエリア」と同じものです（共有されています）。ですので、「コンテンツ フリーエリア」の中身を変更すれば、ウィジェットセットの「コンテンツ要素」と「トップのコンテンツ」の、「コンテンツ フリーエリア」の箇所に変更が生じます。

ここでは、ウィジェットである「コンテンツ フリーエリア」のどの部分に変更可能であるかと、実際にバナーを変更したいと思います。

先ほどの Movable Type の画面より、左のサイドナビゲーションの「ウィジェット」をクリックします。



「ウェブサイトウィジェットの管理」のページに移りますので、この中の「コンテンツ要素」をクリックします。



「ウィジェットセットの編集」画面になりますので、「インストール済み」になっている「コンテンツ フリーエリア」の「編集」をクリックします。

※ウィジェットセット「コンテンツ要素」に含めることができるのは、「コンテンツ フリーエリア」のウィジェットのみです。



「コンテンツ フリーエリア」の「ウィジェットの編集」画面が表示されます。<div class="content-freearea pkg"></div>内に、バナーやテキストなどを入力します。バナーやテキスト、もしくは、ボックス形式内にテキストなどを入れる場合は、<div class="content-freearea pkg"></div>内に、以下をのタグ（赤字）類を使用して入力します。

```
<div class="banner">
```

```

```

```
</div>
```

```
<div class="box pkg">
```

```
お問い合わせは： <a href="contact.html">お問い合わせフォーム </a>もしくは<br />
```

```
E-mail： info@yourcompany.com<br />
```

```
電話番号： 123-123-1234<br />
```

```
FAX： 123-123-1234
```

```
</div>
```

```
<p>テキストが来る時は、&lt;p>&lt;/p>タグで囲みます</p>
```



ここでは、上記の<div class="banner"></div>内にあるバナーを変更したいと思います。バナー画像のアップロード方法は、「[■ ウィジェットの変更方法：ウィジェットセット「ヘッダー右」の場合](#)」の後半をご参照ください。ここでは、「banner_shiryo.gif」という画像をアップロードしました。この画像のサイズは、幅 680px 縦 120px です。コードは以下のように変更し、ページ下方の「変更を保存」ボタンをクリックします。（画像にはリンクを付けています。）

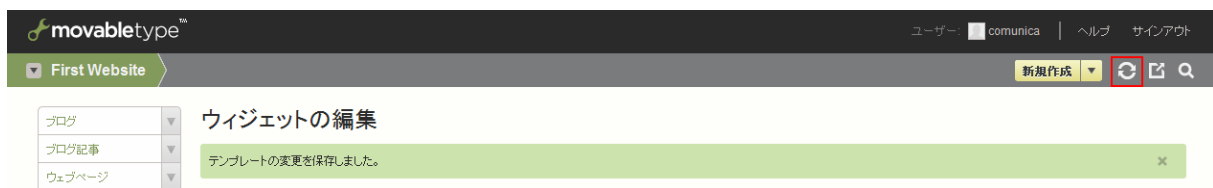
```
<div class="content-freearea pkg">
```

```
<div class="banner"><a href="http://www.comunicatemplates.com/"></a></div>
```

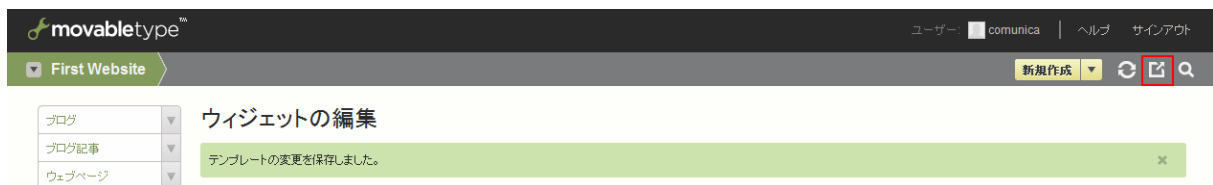
```
</div>
```



「テンプレートの変更を保存しました。」とメッセージが出ますので、サイトを再構築します。
(再構築ボタンをクリックします。)



再構築が終わったら、「サイトの表示」ボタンをクリックします。



「First Website」のトップページが表示され、「コンテンツ フリーエリア」で変更したバナーが、前回のウィジェットセット「トップのコンテンツ」で変更した「コンテンツ フリーエリア」の箇所に表示されていることがわかります。(バナーの箇所は、ウィジェットセット「トップのコンテンツ」で、位置を変更することができます。)



ウィジェット「コンテンツ フリーエリア」は、ウィジェットセット「コンテンツ要素」と「トップのコンテンツ」で共有されていますので、今変更したバナーの内容は、「First Website」のウェブページ上でも反映されています。サイト上の「サービスの内容」をクリックします。



「サービスの内容」ページに移り、コンテンツの下に、今ほど変更したバナーが表示されていることがわかります。



※ウィジェットは、ウェブサイト、各ブログと、個別に対応しているので、「First Website」で指定したバナーを他の場所（「メインのブログ」や「ニュースのブログ」）でも使用したい場合は、「メインのブログ」、「ニュースのブログ」の方にも設定する必要があります。逆に、「First Website」には表示したいが、「メインのブログ」、「ニュースのブログ」の方には表示したくない場合などにも、柔軟に設定できます。

■ ウィジェットの変更方法：ウィジェットセット「head 要素」の場合

ウィジェットセットの「head 要素」には、「Google ウェブマスターツール」のメタタグなどを入力することができる「ウェブマスターツール」というウィジェットを用意しています。（Google のメタタグ以外にも、Javascript などのコードを入れていただけます。）

「Google ウェブマスターツール」については、各々で内容をご確認ください。以下に参考 URL を記載します。

Google ウェブマスターツールについて：

- <https://www.google.com/webmasters/tools/>
- <http://www.google.co.jp/webmasters/edu/quickstartguide/index.html>

それでは、ここでは、仮に Google のウェブマスターツールで得たメタタグを、ウィジェットセットの「head 要素」内にある、ウィジェット「ウェブマスターツール」に入力するまでをご説明します。

※Google のウェブマスターツールで得られるメタタグのステップなどはここでは省略します。

先ほどの（ページが開いたままになっている）「ウィジェットセットの編集」画面に戻ります。左のサイドナビゲーションの「ウィジェット」をクリックします。



「ウェブサイトウィジェットの管理」のページに移りますので、「head 要素」をクリックします。



「ウィジェットセットの編集」ページに移りますので、「インストール済み」になっている「ウェブマスターツール」の「編集」をクリックします。

※デフォルトの設定で、ウィジェットセット「head 要素」に含めることができるのは、「インストール済み」側にある「ウェブマスターツール」のウィジェットのみです。もちろん、「head 要素」に新しいウィジェットを追加することも可能です。



「ウェブマスターツール」の「ウィジェットの編集」画面が表示されます。デフォルトの状態ではコメントが記載されており、その内容通り、Google のメタタグを入れる場合は、`<MTIf name="main_index">`から`</MTIf>`の間までに入れます。

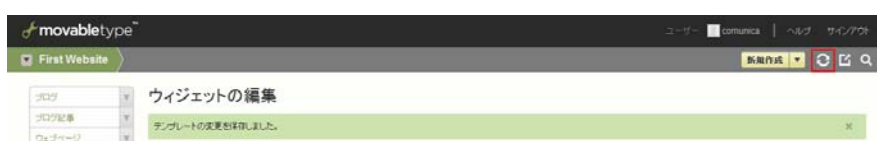
※Google のメタタグは、サイトのトップページにのみ入力のため`<MTIf name="main_index">`から`</MTIf>`の間までに入れます。

それでは、`<MTIf name="main_index">`から`</MTIf>`の間に Google のメタタグを入力し、ページ下方にある「変更を保存」ボタンをクリックします。ここでは、仮に以下の Google メタタグを入力するとします。

```
<meta name="verify-v1"
content="+igCTdJYKBCiGWrs5go6dMUfEUWELVbFbpL2qwR34Hu=" />
```



「テンプレートの変更を保存しました。」とメッセージが表示されますので、サイトを再構築します。（再構築ボタンをクリックします。）



再構築が終わったら、「サイトの表示」ボタンをクリックします。



「First Website」のトップページが表示されますので、このページのソースコードを確認します。（確認方法は、ブラウザのナビゲーションバーにある「表示」>「ページのソース」をクリックします。）トップページに入力した Google のメタタグが<head>から</head>内に記載されていることがわかります。

※メタタグの追加場所は、Google の指定 = 「サイトのホームページにある最初の<body>セクションの前の初めの<head> セクションに貼り付けます。」通りにしています。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD XHTML 1.0 Transitional//EN"
"http://www.w3.org/TR/xhtml1/DTD/xhtml1-transitional.dtd">
<html xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml" xml:lang="ja" id="movabletype">
  <head>
    <meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=UTF-8" />
    <meta http-equiv="Content-Script-Type" content="text/javascript" />
    <meta http-equiv="Content-Style-Type" content="text/css" />
    <meta name="generator" content="Movable Type Pro 5.01" />

    <title>First Website</title>
    <meta name="description" content="" />
    <meta name="keywords" content="" />

    <link rel="stylesheet" href="http://www.yourdomain.com/css/style.css" type="text/css" media="screen" />
    <link rel="stylesheet" href="http://www.yourdomain.com/css/print.css" type="text/css" media="screen" />
    <link rel="stylesheet" href="http://www.yourdomain.com/css/print.css" type="text/css" media="print" />

    <link rel="alternate" type="application/atom+xml" href="http://www.yourdomain.com/atom.xml" />
    <link rel="EBCDIC" type="application/xhtml+xml" href="http://www.yourdomain.com/ebcdic" />
    <link rel="tag" href="http://www.yourdomain.com/atom.xml" />
    <link rel="tag" href="http://www.yourdomain.com/archives.html" type="EBCDIC" />

    <script type="text/javascript" src="http://www.yourdomain.com/js/mt.js"></script>
    <script type="text/javascript" src="http://www.yourdomain.com/js/mt.js"></script>
  </head>
```

Google のメタタグは、サイトのトップページにのみ入力するものなので、念のため、トップページ以外のページに記載されていないか調べます。サイトの「サービスの内容」をクリックし、上記と同様にページのソースを確認します。「サービスの内容」ページには、メタタグは記載されていないことが確認できます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD XHTML 1.0 Transitional//EN"
"http://www.w3.org/TR/xhtml1/DTD/xhtml1-transitional.dtd">
<html xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml" xml:lang="ja" id="movabletype">
  <head>
    <meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=UTF-8" />
    <meta http-equiv="Content-Script-Type" content="text/javascript" />
    <meta http-equiv="Content-Style-Type" content="text/css" />
    <meta name="generator" content="Movable Type Pro 5.01" />

    <title>サービスの内容</title>
    <meta name="description" content="サービスの内容のサンプル。" />
    <meta name="keywords" content="" />

    <link rel="stylesheet" href="http://www.yourdomain.com/css/style.css" type="text/css" media="screen" />
    <link rel="stylesheet" href="http://www.yourdomain.com/css/print.css" type="text/css" media="screen" />
    <link rel="stylesheet" href="http://www.yourdomain.com/css/print.css" type="text/css" media="print" />

    <link rel="alternate" type="application/atom+xml" href="http://www.yourdomain.com/atom.xml" />
    <link rel="EBCDIC" type="application/xhtml+xml" href="http://www.yourdomain.com/ebcdic" />
    <link rel="tag" href="http://www.yourdomain.com/atom.xml" />
    <link rel="tag" href="http://www.yourdomain.com/archives.html" type="EBCDIC" />

    <script type="text/javascript" src="http://www.yourdomain.com/js/mt.js"></script>
  </head>
```

冒頭でも述べましたが、ウィジェット「ウェブマスターツール」に Javascript などを入れることも可能です。その場合は、「First Website」の分であれば、<MTIf name="main_index">から</MTIf>以外の箇所（上部）にコードを入力します。

また、「メインのブログ」、「ニュースのブログ」にも「ウェブマスターツール」のウィジェットを用意していますが、こちらには、Google や YAHOO ! のメタタグを入力することはありませんので、<MTIf name="main_index">から</MTIf>の記載はありません。こちらの分に関しては、Javascript などを入力するウィジェットとしてご利用ください。

■ ウィジェットの変更方法：ウィジェットセット「アクセス解析要素」の場合

SEO 対策としてサイトのアクセスを解析するツールに Google Analytics という解析ツールがあります。Comunica Templates ではウィジェットセット「アクセス解析要素」に含む事ができるウィジェットとして、「グーグルアナリティクス」というウィジェットを用意しています。ここではこれに、アクセス解析用のコードを入力するまでを解説したいと思います。

Google Analytics について：

- <http://www.google.com/intl/ja/analytics/>

先ほどの Movable Type の画面より、左のサイドナビゲーションの「ウィジェット」をクリックします。



「ウェブサイトウィジェットの管理」のページに移りますので、「アクセス解析要素」をクリックします。

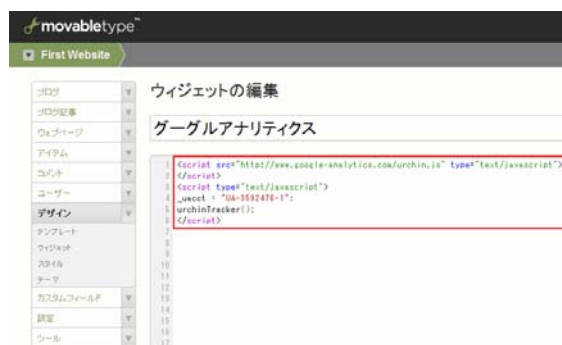


「ウィジェットセットの編集」画面に移りますので、「インストール済み」になっている「グーグルアナリティクス」の「編集」をクリックします。

※デフォルトの設定で、ウィジェットセット「アクセス解析要素」に含めることができるのは、「インストール済み」側にある「グーグルアナリティクス」のウィジェットのみです。もちろん、「アクセス解析要素」に新しいウィジェットを追加することも可能です。

「グーグルアナリティクス」の「ウィジェットの編集」画面が開きますので、ここに Google Analytics 用のコードを入力し、ページ下方にある「変更を保存」ボタンをクリックします。ここでは、以下のサンプルコードを入力します。

```
<script src="http://www.google-analytics.com/urchin.js" type="text/javascript">
</script>
<script type="text/javascript">
_uacct = "UA-3592476-1";
urchinTracker();
</script>
```



「テンプレートの変更を保存しました。」とメッセージが表示されますので、サイトを再構築します。（再構築ボタンをクリックします。）



再構築が終わったら、「サイトの表示」ボタンをクリックします。



「First Website」のトップページが表示されますので、このページのソースコードを確認します。（確認方法は、ブラウザのナビゲーションバーにある「表示」>「ページのソース」をクリックします。） ページソースの下方に、ただ今入力した Google Analytics 用のコードが記載されていることがわかります。

※Google Analytics のコードは、</body>タグの真上に貼り付けるように Google Analytics の方で指定があります。

```
<address>Copyright &copy; First Website<br />
Powered by <a href="http://www.sixapart.jp/movabletype/" target="_blank" title="Movable Type Pro 5.01">Movable Type Pro 5.01</a>
Theme by <a href="http://www.comunicatemplates.com" target="_blank" title="Comunica Templates">Comunica Templates</a>
</address>

</div>
<!-- //Footer -->

</div> <!-- //wrapper -->
<script src="http://www.google-analytics.com/urchin.js" type="text/javascript">
</script>
<script type="text/javascript">
_uacct = "UA-3592476-1";
urchinTracker();
</script>

</body>
</html>
<!-- //Footer -->
```

アクセス解析は、サイト全体にコードを貼り付ける必要がありますので、「メインのブログ」、「ニュースのブログ」においても上記コードを貼り付け、サイトを再構築します。

これで、テーマにおける大体の「ウィジェットセット」と「ウィジェット」についてのポイントを押さえる事ができました。後は、サイドナビにおける各項目の順序を変更したり、不必要な項目は「インストール済み」から「利用可能」欄に移したりなどして、ご自由にサイトを構成されてください。

(7) ロゴの入れ替え

Comunica Templates のテーマで作成したサイトのロゴを変更するには、ロゴの画像 (logo.gif) を修正し、画像の差し換えを行います。

※画像を修正するには、画像編集ソフト (=Photoshop など) が必要です。また、logo.gif の元画像 (psd ファイル) は、元画像フォルダの中にあります。

logo.gif などの画像が入ったフォルダ (images) は、「First Website」用のテーマをインストールすると同時に、サイト直下にインストールされています。例えば、公開パスであるウェブサイトの URL が「http://www.yourdomain.com/」であれば、「images」フォルダは、「http://www.yourdomain.com/」直下にインストールされ、「images」フォルダまでのパスは、「http://www.yourdomain.com/images」という具合に示すことができます。

この「images」フォルダ内にある「logo.gif」を差し替えるには、2つの方法があります。1つはFTPクライアントなどを利用し、ローカル側に用意している修正済みの「logo.gif」を、サーバ側にある「images」フォルダ内の「logo.gif」に上書きする方法。

もう1つは、「First Website」の Movable Type の管理画面からローカル側に用意している修正済みの「logo.gif」をアップロードし、画像を上書き保存する方法です。

ここでは、Movable Type の管理画面からローカル側に用意している修正済みの「logo.gif」をアップロードし、サイトのロゴを差し替える方法をご説明します。

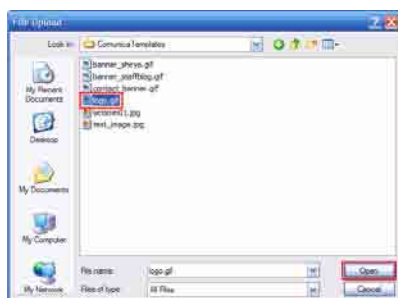
「First Website」の管理画面を表示します。左のサイドナビゲーションの「アイテム」の右側にある矢印をクリックし、出てくるサブメニューの中の「新規」をクリックします。



「アイテムのアップロード」というタイトルのページに移りますので、「アップロードするファイルを選択」の「Browse」ボタンをクリックします。



ローカルサイドでポップアップウィンドウが表示されますので、アップロードするファイルを選択します。(ここでは、logo.gif)



次に「アップロード先」として、＜サイトパス＞以下のテキストボックスに「images」を入力し、「アップロード」ボタンをクリックします。(画像ファイルは、「images」フォルダに入れるようにします。)

※ここでは「フォルダの選択」を利用したフォルダの作成は行いません。理由は、サイトマップのページに、画像用として作成したフォルダも表示されてしまうからです。(画像用フォルダはサイトマップには表示したくないため。)



「同名のアイテム'logo.gif'がすでに存在します。上書きしますか?」というメッセージが出てきますので、「はい」をクリックします。



「アイテムの管理」画面に移り、「logo.gif」の画像がアップロードされたことがわかります。



「サイトの表示」ボタンをクリックして、サイトを確認します。



ロゴの画像が変更されたことがわかります。



画像サイズに関しては、基本、テンプレート内の logo.gif のサイズに合わせます。もしも、logo.gif のサイズを変更する場合は、「First Website」の「テンプレートモジュール」である「ヘッダー」の該当箇所を修正します。（<h1>〜</h1>で囲まれた箇所の img タグにある width と height のところです。）

今回アップロードした画像は、元来の logo.gif の画像サイズ（横 420px 縦 65px）よりも横幅が大きく、横 465px 縦 65px ですので、テンプレートの該当箇所のサイズを変更します。

先ほどの Movable Type の管理画面より、左のサイドナビゲーションの「デザイン」の右側にある矢印をクリックし、出てくるサブメニューの中の「テンプレート」をクリックします。



「ウェブサイトテンプレートの管理」ページに移りますので、右側の「クイックフィルタ」より「テンプレートモジュール」をクリックします。



「テンプレートモジュール」のセクションが表示されますので、この中から「ヘッダー」をクリックします。



<h1>〜</h1>で囲まれたタグのlogo.gifの箇所がありますので、そのwidthを「465」に変更し、ページ下方にある「変更を保存」ボタンをクリックします。



「テンプレートの変更を保存しました。」とメッセージが表示されますので、サイトを再構築します。（再構築ボタンをクリックします。）



再構築が終わったら、「サイトの表示」ボタンをクリックします。



「First Website」のトップページが表示され、先ほどまでサイズの違いによりロゴ画像に歪みが出ていましたが、これがなくなったことがわかります。



同様の作業（「ヘッダー」テンプレートの<h1>〜</h1>で囲まれたタグのlogo.gifの箇所にあるwidthの数値を「465」に変更、保存し、サイトを再構築）を「メインのブログ」と「ニュースのブログ」にも適用し、画像サイズの変更を反映させます。

(8) トップイメージの入れ替え

「トップイメージ」を変更するには、top_image.jpg を修正し、画像の差し換えを行います。
※画像を修正するには、画像編集ソフト（＝Photoshop など）が必要です。また、top_image.jpg の元画像は、元画像フォルダの中にあります。

「[\(7\) ロゴの入れ替え](#)」の時と同じように、top_image.jpgなどの画像が入ったフォルダ（images）は、「First Website」用のテーマをインストールしたのと同時に、サイト直下にインストールされています。例えば、公開パスであるウェブサイトのURLが「http://www.yourdomain.com/」であれば、「images」フォルダは、「http://www.yourdomain.com/」直下にインストールされ、「images」フォルダまでのパスは、「http://www.yourdomain.com/images」という具合に示すことができます。

この「images」フォルダ内にある「top_image.jpg」を差し替えるには、「[\(7\) ロゴの入れ替え](#)」の時と同じように、2つの方法があります。1つはFTPクライアントなどを利用し、ローカル側に用意している修正済みの「top_image.jpg」を、サーバ側にある「images」フォルダ内の「top_image.jpg」に上書きする方法。もう1つは、Movable Typeの管理画面からローカル側に用意している修正済みの「top_image.jpg」をアップロードし、画像を上書き保存する方法です。

Movable Typeの管理画面を使用した画像のアップロード方法については、「[\(7\) ロゴの入れ替え](#)」の時の解説と同じですので、「[\(7\) ロゴの入れ替え](#)」の該当箇所をご参照ください。

画像サイズに関しては、基本、テンプレート内の「top_image.jpg」のサイズに合わせます。もしも、「top_image.jpg」のサイズを変更する場合は、「トップイメージ」の場合は、「First Website」の「インデックステンプレート」内にある「CSS Content Categories」というテンプレートの「div.top-image」の箇所にある「width」と「height」を修正し、「保存と再構築」をします。ここでは、この「width」と「height」を修正するまでをご説明します。

「First Website」の管理画面を表示します。左のサイドナビゲーションの「デザイン」の右側にある矢印をクリックし、出てくるサブメニューの中の「テンプレート」をクリックします。



「ウェブサイトテンプレートの管理」ページが表示されますので、この中の「CSS Content Categories」をクリックします。

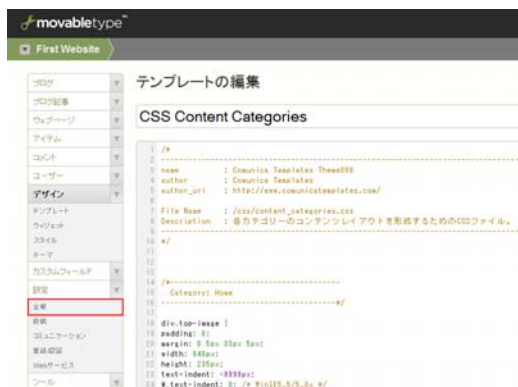


「テンプレートの編集」画面が表示されます。18 行目あたりに「div.top-image」の箇所があり、その下 21 行目と 22 行目あたりに「width: 940px;」と「height: 235px;」がありますので、画像サイズに変更がある場合は、ここの数値を変更し、「保存と再構築」ボタンをクリックします。



また、「トップイメージ」の画像は、css ファイル側で背景画像として設定しているので、HTML サイドでタグが空要素にならないように（マークアップの構文エラーにならないように）、「First Website」の「説明」（サイドナビゲーションの「設定」>「全般」>「説明」）箇所で設定した内容が、その空要素の箇所に来るようにしています。（ブラウザ上では視覚的には見えません。）

ここでは、その「説明」の設定箇所がどこであるのかについて、ご説明します。
先ほどの Movable Type の管理画面より、サイドナビゲーションの「設定」の右側にある矢印をクリックし、出てくるサブメニューの中の「全般」をクリックします。



「全般設定」というタイトルのページが表示されます。このページの「説明」の箇所に、このサイトについての簡単な概要を記述し、下方にある「変更を保存」ボタンをクリックします。この「説明」が「トップイメージ」用のテキストになります。

※この「説明」の部分は、「[■ ウェブサイトのトップページ（「First Website」の「インデックステンプレート」の「メインページ」によって出力されるページ）のtitle、description、keywordsには](#)」において、「description」として説明したところと同じ箇所です。



設定後は、この変更をサイトに反映するために、「First Website」を再構築します。再構築後、「First Website」のトップページのHTMLファイルを調べると、「トップイメージ」の箇所に、上記「説明」で入力したテキストが記述されているのがわかります。

```
<!-- Pagebody -->
<div id="pagebody_top" class="pkg">

<div class="top-image"><span>Artに関するサイト</span></div>

<div id="content" class="pkg">
<!-- //Header -->
```

(9) 文字サイズの変更

Comunica Templates のテンプレートには、文字サイズを調整するための専用 CSS ファイルがあります。「First Website」の「インデックステンプレート」内にある「CSS Font M」というテンプレートが、これにあたります。(左のサイドナビゲーション:「デザイン」>「テンプレート」>「インデックステンプレート」>「CSS Font M」)

既定の設定では、コンテンツ部分やサイドナビ部分の文字は同じサイズにしています。コンテンツ部分だけ文字サイズを若干大きくしたい場合は、上記テンプレート（「CSS Font M」）の該当箇所を以下のように変更し、「保存と再構築」ボタンをクリックします。

<pre>#content { font-size: 100%; } #pagebody_top #content { font-size: 100%; }</pre>	左側の赤字で記しているフォントサイズ 100%を、右側→のように 110%にします。	<pre>#content { font-size: 110%; } #pagebody_top #content { font-size: 110%; }</pre>
--	--	--

トップページのコンテンツのフォントサイズのみを大きくしたい場合は、以下の部分を変更し、「保存と再構築」ボタンをクリックします。

<pre>#pagebody_top #content { font-size: 100%; }</pre>	左側の赤字で記しているフォントサイズ 100%を、右側→のように 110%にします。	<pre>#pagebody_top #content { font-size: 110%; }</pre>
--	--	--

トップページのコンテンツのフォントサイズはそのまま、トップページ以外のコンテンツのフォントサイズのみを大きくしたい場合は、以下の部分を変更し、「保存と再構築」ボタンをクリックします。

<pre>#content { font-size: 100%; }</pre>	左側の赤字で記しているフォントサイズ 100%を、右側→のように 110%にします。	<pre>#content { font-size: 110%; }</pre>
--	--	--

タグクラウドのフォントサイズを変更したい場合は、以下の箇所のフォントサイズを変更します。サイズは 1～8 までとなります。

```
#sidebar ul.tagclouds .size1 { font-size: 160%; }  
#sidebar ul.tagclouds .size2 { font-size: 150%; }  
#sidebar ul.tagclouds .size3 { font-size: 140%; }  
#sidebar ul.tagclouds .size4 { font-size: 130%; }  
#sidebar ul.tagclouds .size5 { font-size: 125%; }  
#sidebar ul.tagclouds .size6 { font-size: 115%; }  
#sidebar ul.tagclouds .size7 { font-size: 100%; }  
#sidebar ul.tagclouds .size8 { font-size: 85%; }
```

これら以外にもヘッダーやフッター、h1～h6 などのテキストサイズを変更できます。

（※但し h1 タグは、サイトのロゴ画像用に使用しています。）

詳しくは、「First Website」の「インデックステンプレート」内にある CSS 用テンプレート「CSS Font M」をご確認ください。

※フォントサイズの指定は、px などの絶対指定ではなく、%（もしくは em）などの相対指定にします。これはサイトを訪れてくれる方々（特に IE を使用している方々）に対するユーザビリティの考慮のためです。

(10) 用意されている HTML タグ用のクラス

Movable Type で記事を書く際、ある箇所だけフォントサイズを小さくしたり、大きくしたり、テキストを右寄せ、左寄せにしたり、また、画像を挿入した箇所の右や左、上や下に余白を設けたい場合があると思います。これらの場合を想定し、Comunica Templates のテンプレートでは、予め、これらの指定を持った CSS のクラスを用意しています。

※CSS 用のテンプレートは、「First Website」の「インデックステンプレート」内にあります。

■ フォントサイズ用の CSS クラス

フォントサイズ用の CSS クラスとして、以下のクラスを用意しています。

- ・このクラスを指定している CSS 用テンプレート名：CSS Font M

```
.fontSmall {
    font-size: 85%;}
.fontMedium {
    font-size: 100%;}
.fontLarge {
    font-size: 115%;}
.fontLarge-x {
    font-size: 125%;}
.fontLarge-xx {
    font-size: 130%;}
.fontLarge-xxx {
    font-size: 140%;}
.fontLarge-xxxx {
    font-size: 150%;}
.fontLarge-xxxxx {
    font-size: 160%;}
```

<例1>

記事を書く際、小さい文字でテキストを指定したい場合、HTML タグ用のクラスとして .fontSmall を使用できます。

<p class="fontSmall">oooooooooooo</p>

<例 2 >

大きい文字でテキストを指定したい場合は、HTML タグ用のクラスとして fontLarge を使用できます。

<p class="fontLarge-xx">oooooooooooo</p>

■ スペース用の CSS クラス

スペース用の CSS クラスとして、以下のクラスを用意しています。

- ・ このクラスを指定している CSS 用テンプレート名 : **CSS Content Elements**

```
.margin-right5 {  
margin-right: 5px;  
}  
.margin-right10 {  
margin-right: 10px;  
}  
.margin-right15 {  
margin-right: 15px;  
}  
.margin-right20 {  
margin-right: 20px;  
}  
.margin-right25 {  
margin-right: 25px;  
}  
.margin-right30 {  
margin-right: 30px;  
}  
.margin-right35 {  
margin-right: 35px;  
}  
.margin-right40 {  
margin-right: 40px;  
}  
.margin-right45 {  
margin-right: 45px;  
}
```

```
.margin-right50 {  
margin-right: 50px;  
}
```

```
.margin-left5 {  
margin-left: 5px;  
}
```

```
.margin-left10 {  
margin-left: 10px;  
}
```

```
.margin-left15 {  
margin-left: 15px;  
}
```

```
.margin-left20 {  
margin-left: 20px;  
}
```

```
.margin-left25 {  
margin-left: 25px;  
}
```

```
.margin-left30 {  
margin-left: 30px;  
}
```

```
.margin-left35 {  
margin-left: 35px;  
}
```

```
.margin-left40 {  
margin-left: 40px;  
}
```

```
.margin-left45 {  
margin-left: 45px;  
}
```

```
.margin-left50 {  
margin-left: 50px;  
}
```

```
.margin-top5 {  
margin-top: 5px;  
}
```

```
.margin-top10 {  
margin-top: 10px;  
}  
.margin-top15 {  
margin-top: 15px;  
}  
.margin-top20 {  
margin-top: 20px;  
}  
.margin-top25 {  
margin-top: 25px;  
}  
.margin-top30 {  
margin-top: 30px;  
}  
.margin-top35 {  
margin-top: 35px;  
}  
.margin-top40 {  
margin-top: 40px;  
}  
.margin-top45 {  
margin-top: 45px;  
}  
.margin-top50 {  
margin-top: 50px;  
}  
  
.margin-bottom5 {  
margin-bottom: 5px;  
}  
.margin-bottom10 {  
margin-bottom: 10px;  
}  
.margin-bottom15 {  
margin-bottom: 15px;  
}
```

```
.margin-bottom20 {  
margin-bottom: 20px;  
}  
.margin-bottom25 {  
margin-bottom: 25px;  
}  
.margin-bottom30 {  
margin-bottom: 30px;  
}  
.margin-bottom35 {  
margin-bottom: 35px;  
}  
.margin-bottom40 {  
margin-bottom: 40px;  
}  
.margin-bottom45 {  
margin-bottom: 45px;  
}  
.margin-bottom50 {  
margin-bottom: 50px;  
}
```

<例 1 >

記事を書く際、下のパラグラフとの間にスペースを設けたい場合、HTML タグ用のクラスとして margin-bottom5（～margin-bottom50 まで）を使用できます。

```
<p class="margin-bottom50">oooooooooooo</p>
```

<例 2 >

画像を挿入し右側に寄せた場合で、画像の左側にスペースを設けたい場合、HTML タグ用のクラスとして margin-left5（～margin-left50 まで）を使用できます。

```

```


■ フロート用の CSS クラス

フロート用の CSS クラスとして、以下のクラスを用意しています。

- ・ このクラスを指定している CSS 用テンプレート名：**CSS Content Elements**

```
.float-right {  
float: right;  
}  
.float-left {  
float: left;  
}  
.clear-both {  
clear: both;  
}
```

<例 1 >

画像を挿入した際、align を使わずに右寄せにしたい場合、HTML タグ用のクラスとして float-right を使用できます。

```

```

<例 2 >

にフロートが使われているパラグラフに後続するパラグラフが、前述のフロートに影響される場合、HTML タグ用のクラスとして clear-both を使用できます。

```
<p>○○○○○○○○○○○○○○○</p>
```

```
<h3 class="clear-both">○○○○○○○○○○○○○○○</h3>  
<p>○○○○○○○○○○○○○○○</p>
```

■ 行揃え・均等割付（text-align）用の CSS クラス

行揃え・均等割付（text-align）用の CSS クラスとして、以下のクラスを用意しています。

・このクラスを指定している CSS 用テンプレート名：[CSS Content Elements](#)

```
.text-align-right {  
text-align: right;  
}  
.text-align-left {  
text-align: left;  
}  
.text-align-center {  
text-align: center;  
}  
.text-align-justify {  
text-align: justify;  
text-justify: distribute-all-lines;  
}
```

<例 1>

テキストを右寄せにしたい場合、HTML タグ用のクラスとして text-align-right を使用できます。

<p class="text-align-right">テキストを右寄せにします。</p>

<例 2>

テキストを左寄せにしたい場合、HTML タグ用のクラスとして text-align-left を使用できます。

<p class="text-align-left">テキストを左寄せにします。</p>

<例 3>

テキストを中央揃えにしたい場合、HTML タグ用のクラスとして text-align-center を使用できます。

<p class="text-align-center">テキストを中央揃えにします。</p>

<例 4>

テキストを均等割付にしたい場合、HTML タグ用のクラスとして text-align-justify を使用できます。

<p class="text-align-justify">テキストを均等割付にします。</p>

(11) 用意されている CSS スタイル済みの HTML タグ

ここでは、Comunica Templates のテンプレートで、既に CSS スタイル済みの HTML タグをご紹介します。記事を作成する際、これらの HTML タグを使用し、正しいマークアップを心掛けることで、SEO を高めることができます。

Comunica Templates のテンプレートでは、テンプレートの性質上、また、ご利用者の多様性により、ロゴは<h1>（見出しレベル 1）に、ブログ記事やウェブページのタイトルは<h2>（見出しレベル 2）に指定しています。

この為、論理的なマークアップを行うにあたり、ブログ記事やウェブページの中で使用する見出しタグは、<h3>（見出しレベル 3）からとなります。もちろん、ブログ記事/ウェブページの中に、ブログ記事/ウェブページのタイトルと同じレベルの見出しを置きたい場合は、<h2>タグを使うことができます。以下はタグのサンプルです。（ご参考用のみ。）

```
<h3>H3 見出しタイトル</h3>
```

```
<div>これは Div の文章です。</div>
```

```
これはパラグラフの無い文章。<br />
```

```
<h4>H4 見出しタイトル</h4>
```

```
<p>パラグラフの文章。</p>
```

```
<h5>H5 見出しタイトル</h5>
```

```
<p class="fontSmall">フォントサイズの小さなテキストです。</p>
```

```
<h6>H6 見出しタイトル</h6>
```

```
<p class="fontLarge">フォントサイズの大きなテキストです。</p>
```

```
<p><a href="index.html">リンクテキストです。</a></p>
```

```
<p>
```

```
  abbr の場合： <abbr title="Extensible Markup Language">XML</abbr><br />
```

```
  acronym の場合： <acronym title="Small Office Home Office">SOHO</acronym><br />
```

```
  キーボード入力の場合： <kbd>qwerty</kbd>
```

```
</p>
```

```

<p>
    <em>em タグです。</em>
    <i>italic のサンプルテキスト。</i>
    <strong>strong タグです。</strong>
    <b>bold のサンプルテキスト。</b>
    sub のテキスト CO<sub>2</sub>。
    sup のテキスト CO<sup>2</sup>。
</p>

<p>出典先は、<cite>"出典先のテストで参照元。"</cite>です。</p>
<p><ins>追記です。これは追記。追記です。</ins>です。</p>
<p><del>これは削除です。</del>ここから普通のテキスト開始。</p>

<blockquote>引用文がここに来ます。</blockquote>

<ul>
    <li><a href="http://www.testxxx.com/test_.html">リンク</a>
        <ul>
            <li><p>リストの中のパラグラフ。</p>パラグラフ以外のリスト内のテキスト。</li>
            <li><div>リストの中の Div テキスト。</div>Div 以外のテキスト。</li>
            <li>リストの中のサンプルテキスト。</li>
        </ul>
    </li>
    <li>これはサンプルテキストです。
        <ol>
            <li>リストの中のサンプルテキスト。</li>
            <li>リストの中のサンプルテキスト。</li>
        </ol>
    </li>
    <li>これはサンプルテキストです。
        <dl>
            <dt>定義リストタイトル</dt>
            <dd>これは、定義デファニション。</dd>
            <dt>定義リストタイトル</dt>
            <dd>これは、定義デファニション。</dd>
        </dl>
    </li>
</ul>

```

```

<ol>

  <li><p>リンク http://www.testxxx.com/test_.html</p></li>
  <li><div>リストの中の Div。</div></li>
  <li>これはサンプルテキストです。

    <ol>

      <li>これはサンプルテキストです。</li>
      <li>これはサンプルテキストです。</li>

    </ol>

  </li>
  <li>これはサンプルテキストです。

    <dl>

      <dt>定義リストタイトル</dt>
      <dd>これは、定義デファニション。</dd>
      <dt>定義リストタイトル</dt>
      <dd>これは、定義デファニション。</dd>

    </dl>

  </li>
</ol>
<form action="">
  <fieldset>
    <legend>個人情報</legend>
    <label for="">氏名 : </label>
    <input type="text" id="" name="" />
    <label for="">住所 : </label>
    <input type="text" id="" name="" />
  </fieldset>
  <fieldset>
    <legend>クレジットインフォ</legend>
    <div>
      <label accesskey=""><input type="radio" name="" value=""> Visa</label>
      <label accesskey=""><input type="radio" name="" value=""> MasterCard</label>
    </div>
    <div>
      <label accesskey="">Number: <input type="text" name=""></label>
      <label accesskey="">Expiry: <input type="text" name=""></label>
    </div>
  </fieldset>
</form>

```

```

<form action="" method="">
  <div>お名前 <span class="red">*</span> : <br />
    <input type="text" size="" name="" /></div>
  <div>メールアドレス <span class="red">*</span> : <br />
    <input type="text" size="" name="" /></div>
  <div>件名 : <br /><input type="text" size="" name="" /></div>
  <div>本文 <span class="red">*</span> : <br />
    <textarea rows="" cols="" name=""></textarea></div>
  <div><input type="submit" name="" value="確認" />
    <input type="submit" name="" value="送信" /></div>
</form>

<form action="" method="">
  <dl>
    <dt>お名前 <span class="red">*</span> : </dt>
    <dd><input type="text" size="" name="" /></dd>
    <dt>件名 : </dt>
    <dd><input type="text" size="" name="" /></dd>
    <dt>本文 <span class="red">*</span> : </dt>
    <dd><textarea rows="" cols="" name=""></textarea></dd>
  </dl>

  <div><input type="submit" name="" value="確認" />
    <input type="submit" name="" value="送信" /></div>
</form>

<form action="" method="">
  <table>
    <tr>
      <td>住所 : <input type="text" name="" tabindex="" /></td>
      <td><a href="#" tabindex="">住所記入の注意</a></td>
    </tr>
    <tr>
      <td>氏名 : <input type="text" name="" tabindex="" /></td>
      <td><a href="#" tabindex="">氏名記入の注意</a></td>
    </tr>
    <tr>
      <td>右から選択してください</td>
    </tr>
  </table>

```

```

        <td>
            <select name="">
                <option value="">この文字が表示される</option>
            </select>
        </td>
    </tr>
</table>
</form>

<table summary="">
    <tr>
        <th width="50%">テーブル A</th>
        <th width="50%">テーブル B</th>
    </tr>
    <tr>
        <td>テーブル A のサンプルテキスト。</td>
        <td>テーブル A のサンプルテキスト。</td>
    </tr>
</table>

<table summary="" width="100%">
    <tr>
        <th style="width: 20%;">カテゴリ 1</th>
        <td style="width: 80%;">テーブルテキストのテスト。</td>
    </tr>
    <tr>
        <th>カテゴリ 2</th>
        <td>テーブルテキストのテスト。</td>
    </tr>
    <tr>
        <th>カテゴリ 3</th>
        <td>テーブルテキストのテスト。</td>
    </tr>
</table>

```

```
<pre>
<table>
  <tr>
    <th width="50%">テーブル A</th>
    <th width="50%">テーブル B</th>
  </tr>
  <tr>
    <td>テーブル A のサンプルテキスト。</td>
    <td>テーブル A のサンプルテキスト。</td>
  </tr>
</table>
</pre>
```

```
<pre><code>
<pre><code>の場合
<table>
  <tr>
    <th width="50%">テーブル A</th>
    <th width="50%">テーブル B</th>
  </tr>
  <tr>
    <td>テーブル A のサンプルテキスト。</td>
    <td>テーブル A のサンプルテキスト。</td>
  </tr>
</table>
</code></pre>
```

これで、「サイトの構築方法」は終了です。
お疲れ様でした。